

2)アユの生息状況調査

・令和5年度の傾向

本年度の吉野川本線では、溯上期に十分な河川流量があり、アユの遡上には問題がなかったと考えられる。また、秋季の下降期には大きな増水が少なく、河口へ流されるアユも少なかったので、一時減少傾向にあった生息密度も回復傾向が見られる。しかしながら、多くのアユが遡上したと考えられるものの、従前(2000年以前)より減少しており、カワウの捕食の影響などがあったと想定される。採捕尾数については、近年少なかった西条大橋地点で一昨年度、昨年度に続き、数多く採捕することができた。

なお、一昨年度よりアユの生息状況調査及び後述する付着藻類調査は、最上流の学島橋地点を取りやめ、今年度より付着藻類調査も全地点で取りやめとなった。

・調査日の流況

現地調査を実施した平成16年度(1992)～令和5年度(2023)の阿波中央橋地点における流量の半旬変化(赤折線)を下図に示す。

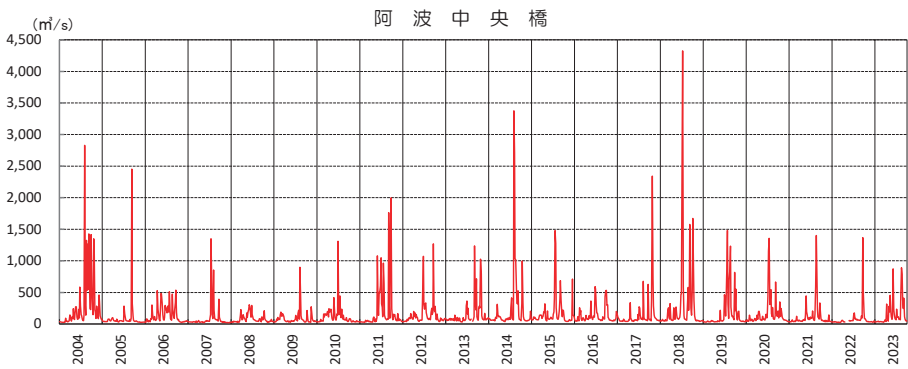


図 2.6.2.1 阿波中央橋地点での流況

・調査日及び調査地点（令和5年度）

調 査 地 点		調 査 手 法	春 季	夏 季	秋 季
吉 野 川	川 島 橋	潜水観察	6 月 13 日	7 月 25 日	10 月 24 日
		採 捕	6 月 13 日	7 月 25 日	10 月 24 日
	西 条 大 橋	潜水観察	6 月 14 日	7 月 26 日	10 月 25 日
		採 捕	6 月 14 日	7 月 26 日	10 月 25 日
	高 瀬 橋	潜水観察	6 月 15 日	7 月 27 日	10 月 26 日
		採 捕	6 月 15 日	7 月 27 日	10 月 26 日

・遡上の状況

本年度のアユ遡上数は、旧吉野川河口堰で2,835,622尾、今切川河口堰で2,376,540尾、両河口堰の遡上数を合算すると5,212,162尾であった。本年度の調査期間が3月中旬～5月下旬であり、昨年度より20日程度長くなっている(一昨年度まで6月中下旬まで実施)。過去の遡上数と比較すると旧吉野川河口堰の遡上数は、昨年度値の308%で、過去全38回(年)の調査中、上位6 番目に当たる遡上数である。また、今切川河口堰の遡上数は、昨年度値の331%で、過去全38 回(年)の調査中、上位5 番目に当たる遡上数である。

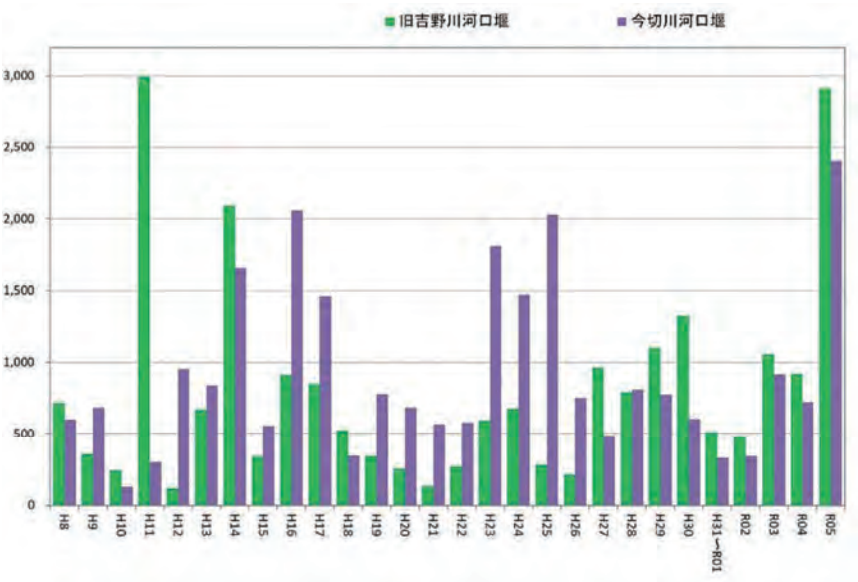


図 2.6.2.2 旧吉野川および今切川河口堰における平成8年～令和5年のアユ遡上数の経年変化

出典：独立行政法人 水資源機構 旧吉野川河口堰管理所
「河口堰魚道アユ遡上測定業務」2022.6 p.9

・生息密度

学島橋(令和3年度まで)、川島橋、西条大橋及び高瀬橋について、アユの河床型別生息密度を示す。なお、注目年度及び事項は次のとおりである。

平成11年：吉野川水産資源影響調査（アユ詳細調査）を最終実施した年

平成16年：既往最大出水が発生した年

平成19年：遡上時期に記録的洪水がみられた年

平成21年：年間を通して比較的に少ない出水であったが、8月には台風9号の影響で大出水がみられた年

平成22年：5月の下旬と6月の下旬に大雨の影響で大出水がみられた年

平成23年：5月～9月に発生した台風の影響で大出水が度々確認された年

平成25年：少雨が続いたため、8月に取水制限が実施されたが、9月以降は台風や大雨による大出水がみられた年

平成26年：台風が多く通過し、大出水もたびたび確認された年

平成27年：夏は大雨による出水の影響が大きかったが、夏～秋間は、大雨も無く、生息環境が安定していた。

平成29年：10月下旬に台風、その後に台風に備えた池田ダムからの放流の影響により河川流量が増加した。

平成30年：度重なる台風や前線の影響により河川流量が増大し、流路や河川形態が大幅に変化した。

平成31年：春の遡上期の河川流量が少なく、第十堰魚道部では潜孔の1/2程度の水位であった。

令和 2年：吉野川上流の高知県での降雨のため7月に河道が変化するほどの増水があった。

令和 3年：遡上期の流量もあり、大きな増水も少なかったため、近年では、生息環境が良好であった。

令和 4年：大きな増水も少なかったため、昨年度に続き、生息環境が良好であった。

令和 5年：大きな増水も少なかったため、昨年度に続き、生息環境が良好であった。

②川島橋

川島橋におけるアユの生息密度は、平成16年度以降、アユの生息密度は低くなる傾向にあり、平成19年度以降では特に生息密度が低い状態が続いている。本年度は各季調査では確認できなかった。本地点ではタ方に実施する刺網では数多く捕獲することができるので、昼間には生息しづらい環境と考えられる。

表 2.6.2.2 川島橋におけるアユの生息密度

地点\時期	平成8年				平成9年				平成10年				平成11年						
	5月	7月	10月		5月	7月	8月	10月	5月	6月	8月	10月	5月	6月	7月	8月	10月	11月	
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	4.20	11.00	4.90	1.80	1.00	0.10	11.00	8.40	3.30	1.30	14.00	0.00
平瀬	—	—	—	—	—	—	—	2.10	7.40	1.60	1.00	1.00	0.00	21.00	6.80	0.80	3.00	2.60	1.20
瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	222	—	—	—	11.00	16.00	—

地点\時期	平成15年			平成16年			平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年		
	7月	8月	10月	8月	11月	5月	8月	12月	8月	10月	11月	6月	8月	10月	8月	9月	10月	6月	8月	10月	
早瀬	—	—	—	0.90	0.00	2.50	1.00	0.10	1.30	1.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.25	0.33	0.01	0.13	0.00	
平瀬	—	—	—	2.20	0.10	1.90	0.60	0.00	0.00	0.60	0.10	0.00	0.00	0.24	0.00	0.00	0.00	0.01	0.03	0.13	
瀬	—	—	—	2.90	0.00	0.90	0.10	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	—	—	—	

地点\時期	平成22年			平成23年			平成24年			平成25年			平成26年			平成27年			平成28年		
	6月	8月	10月	7月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月
早瀬	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.06	0.21	0.00	0.56	0.39	0.00	0.08	0.14	0.77	0.00	0.14	1.92
平瀬	0.00	0.09	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.69
瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

地点\時期	平成29年			平成30年			平成31年			令和2年			令和3年			令和4年			令和5年		
	6月	7月	11月	6月	7月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月
早瀬	0.11	0.00	0.00	0.56	0.11	3.61	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.00	0.00	1.15	0.00	0.00	0.00
平瀬	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00
瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

—：未実施もしくは調査地点でない水域 *：調査結果取りまとめ段階のため、未表記

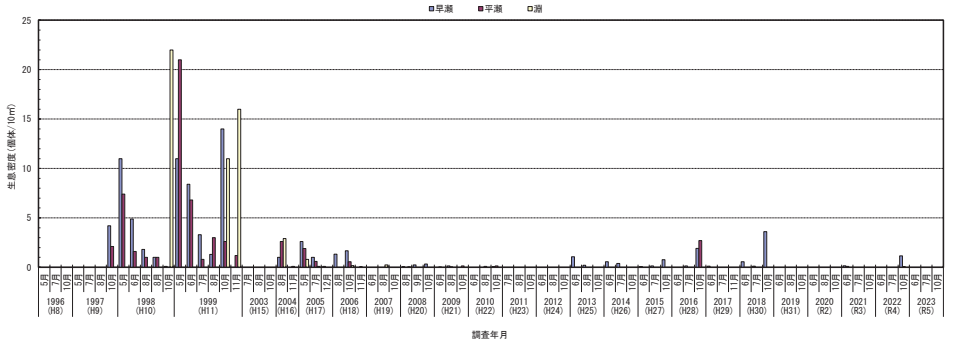


図 2.6.2.4 川島橋におけるアユの生息密度

表2.6.2.1 学島橋におけるアユの生息密度													単位：尾/10m ²								
地点\時期	平成8年			平成9年			平成10年			平成11年											
	5月	7月	10月	5月	7月	8月	10月	5月	6月	8月	10月	5月	6月	7月	8月	10月	11月				
早瀬	—	2.60	1.00	4.60	2.20	0.40	1.10	7.90	3.70	5.00	2.60	0.40	10.00	5.00	0.60	2.10	3.00	0.00			
平瀬	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.40	0.70	0.40	0.20	0.90	0.00	4.50	2.00	0.80	1.10	0.10	0.80			
瀬	—	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	2.90	0.10	0.70	0.70	0.00	4.50	3.90	0.50	0.00	7.00	1.90			
地点\時期	平成15年			平成16年			平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年		
	7月	8月	10月	8月	11月	5月	8月	12月	8月	10月	11月	6月	8月	10月	8月	9月	10月	6月	8月	10月	
早瀬	—	—	—	0.60	0.00	2.20	1.40	0.30	0.19	0.37	5.97	0.00	0.00	0.00	0.03	0.20	0.25	0.19	1.25	0.30	
平瀬	—	—	—	0.20	0.00	0.60	0.20	0.00	0.39	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
瀬	—	—	—	0.10	0.00	0.80	4.00	0.00	0.00	0.28	0.00	0.00	0.05	0.05	0.04	0.06	0.01	0.00	0.05	2.02	
地点\時期	平成22年			平成23年			平成24年			平成25年			平成26年			平成27年					
	6月	8月	10月	7月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	8月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.00	0.00	0.06	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
瀬	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.53	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
地点\時期	平成28年			平成29年			平成30年			平成31年			令和2年			令和3年					
	6月	7月	10月	6月	7月	11月	6月	7月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	7月	10月	6月	8月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.07	0.00	12.89	0.00	0.08	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.31	0.00	0.00	0.00	0.00
瀬	0.00	0.00	2.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00
ー：未実施もしくは調査地点でない水域 ※：調査結果取りまとめ段階のため、未表記																					

—：未実施もしくは調査地点でない水域 *：調査結果取りまとめ段階のため、未表記

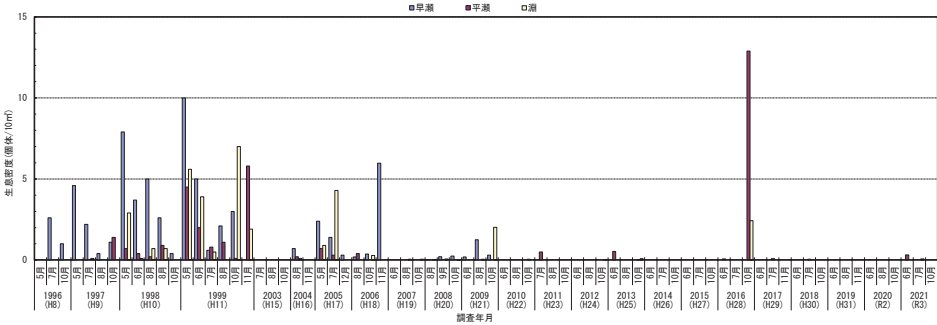


図 2.6.2.3 学島橋におけるアユの生息密度

③西条大橋

西条大橋におけるアユの生息密度は、平成 15 年度、平成 16 年度では頻繁な出水のため、アユを確認することができなかった。平成 17 年度、平成 18 年度では回復傾向にあり、早瀬・平瀬環境での最大値を記録しているが(早瀬：27.7 尾/10m²(平成 17 年 5 月)、平瀬：42.4 尾/10m²(平成 18 年 10 月))、平成 19 年度に減少に転じた。
本年度では年間を通じて、アユを確認し、回復傾向の兆しが見られた。

表2.6.2.3 西条大橋におけるアユの生息密度

地点\時期	平成8年			平成9年			平成10年			平成11年		
	5月	7月	10月	5月	7月	8月	10月	5月	6月	8月	10月	11月
早瀬	19.00	5.30	0.10	7.80	1.40	15.40	5.90	16.00	9.70	15.00	2.90	0.40
平瀬	0.00	0.00	0.10	15.20	—	0.20	0.70	16.00	13.00	0.80	0.20	0.00
淵	2.20	0.00	15.40	0.20	0.00	2.60	0.00	15.00	5.70	2.80	3.60	0.70
地点\時期	平成15年			平成16年			平成17年			平成18年		
	7月	8月	10月	7月	8月	11月	5月	8月	12月	8月	10月	11月
早瀬	—	—	2.30	—	0.00	27.70	16.40	0.00	5.70	10.20	2.00	0.00
平瀬	—	—	—	—	0.00	22.70	22.90	0.04	2.30	42.40	4.80	0.19
淵	—	0.50	15.30	—	0.00	43.90	24.20	0.00	0.20	2.00	0.90	0.00
地点\時期	平成19年			平成20年			平成21年			平成22年		
	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.00	0.08	0.72	0.23	0.00	0.00	7.05	0.00	0.07	9.22	0.00	0.00
淵	0.00	0.32	0.55	1.37	0.00	0.00	2.95	0.00	6.02	12.25	0.25	0.02
地点\時期	平成23年			平成24年			平成25年			平成26年		
	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
淵	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
地点\時期	平成27年			平成28年			令和2年			令和3年		
	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	2.42	0.70	0.00	3.94	0.61	0.00	0.46	0.00	0.00	0.38	0.00	0.00
淵	0.92	0.55	0.00	1.47	0.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
地点\時期	令和4年			令和5年			令和6年			令和7年		
	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	7月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	2.42	0.70	0.00	3.94	0.61	0.00	0.46	0.00	0.00	0.38	0.00	0.00
淵	0.92	0.55	0.00	1.47	0.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

—：未実施もしくは調査地点でない水域 *：調査結果取りまとめ段階のため、未表記

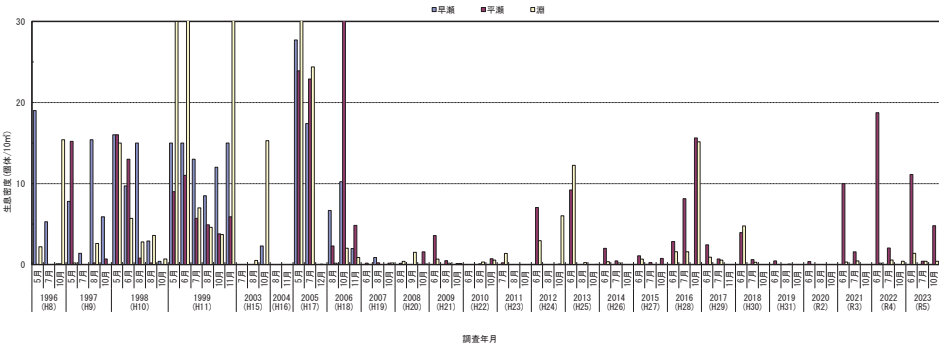


図 2.6.2.5 西条大橋におけるアユの生息密度

④高瀬橋

高瀬橋におけるアユの生息密度は、平成 15 年度以降の調査では、平成 16 年度では頻繁な出水のため、アユを確認することができなかった。平成 17 年度、平成 18 年度では回復傾向にあり、淵環境での最大値を記録しているが(淵：30.7 尾/10m²(平成 17 年 5 月))、平成 19 年度に減少に転じて以降は、0.00～4.76 尾/10m²の間で推移している。
本年度では、潜水範囲ではアユを確認することができなかった。

表2.6.2.4 高瀬橋におけるアユの生息密度

地点\時期	平成8年			平成9年			平成10年			平成11年		
	5月	7月	10月	5月	7月	8月	5月	6月	8月	5月	6月	8月
早瀬	5.30	0.00	0.30	55.00	55.80	4.60	1.30	—	—	—	—	—
平瀬	0.00	0.00	0.00	6.30	1.20	0.00	—	9.30	18.00	0.80	0.20	0.00
淵	0.00	0.00	0.00	—	3.30	6.40	0.00	5.30	4.90	8.20	3.80	0.00
地点\時期	平成15年			平成16年			平成17年			平成18年		
	7月	8月	10月	7月	8月	11月	5月	8月	12月	10月	11月	6月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.53
平瀬	0.70	0.40	0.30	—	0.00	24.00	21.60	0.00	7.30	17.30	0.20	0.22
淵	0.10	0.00	0.30	—	0.00	30.70	2.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
地点\時期	平成19年			平成20年			平成21年			平成22年		
	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.00	0.02	0.00	6.40	0.00	0.00	0.55	0.00	0.00	1.51	0.05	0.00
淵	0.00	0.00	3.57	0.00	0.00	0.00	1.47	0.54	0.00	0.68	0.00	1.08
地点\時期	平成23年			平成24年			平成25年			平成26年		
	6月	8月	10月	7月	8月	10月	6月	8月	10月	6月	7月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.55	0.00	0.00	1.51	0.05	0.00
淵	0.00	0.00	3.57	0.00	0.00	0.00	1.47	0.54	0.00	0.68	0.00	1.08
地点\時期	平成27年			平成28年			令和2年			令和3年		
	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.17	0.00	0.00	0.74	0.96	0.00	0.25	0.00	0.00	1.10	0.00	0.00
淵	1.19	0.00	0.00	2.50	1.49	0.00	0.00	0.00	0.00	0.34	0.00	0.00
地点\時期	令和4年			令和5年			令和6年			令和7年		
	6月	7月	10月	6月	7月	10月	6月	8月	10月	6月	8月	10月
早瀬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平瀬	0.17	0.00	0.00	0.74	0.96	0.00	0.25	0.00	0.00	1.10	0.00	0.00
淵	1.19	0.00	0.00	2.50	1.49	0.00	0.00	0.00	0.00	0.34	0.00	0.00

—：未実施もしくは調査地点でない水域 *：調査結果取りまとめ段階のため、未表記

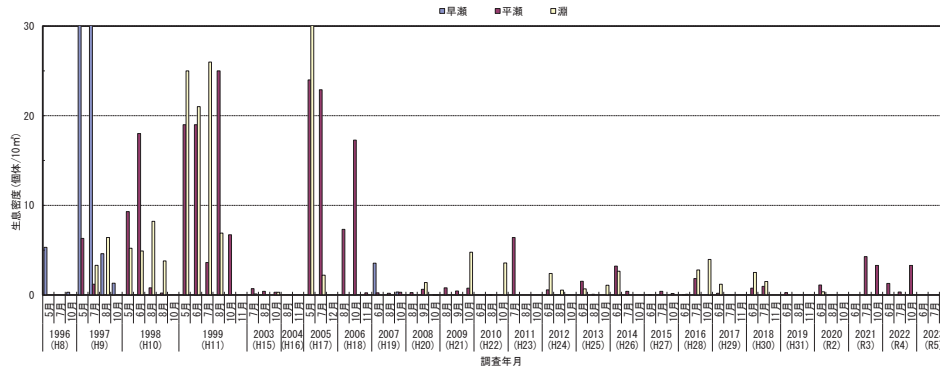


図2.6.2.6 高瀬橋におけるアユの生息密度

・魚体測定結果

①春季調査

春季調査において採捕されたアユの尾数をみると、平成21年度以降、川島橋で多く採捕されていたが、平成30年以降、西条大橋、高瀬橋の方が多く採捕している。

採捕されたアユの体長・体重は、川島橋地点では増加傾向、西条大橋地点が横ばい、高瀬橋地点が減少傾向にある。肥満度は、各地点とも横ばいもしくはやや減少傾向にある。

表 2.6.2.5 採捕されたアユの尾数

項目	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
採捕 尾数	H15	—	—	—	9
	H16	—	—	—	—
	H17	31	35	35	35
	H18	—	—	—	—
	H19	0	2	35	60
	H20	—	—	—	—
	H21	0	104	29	6
	H22	2	124	1	1
	H23	0	31	13	29
	H24	17	86	42	29
	H25	3	64	71	18
	H26	0	>101	50	37
	H27	2	>106	43	42
	H28	6	>101	53	187
	H29	1	>103	112	67
	H30	0	86	172	129
	H31	2	22	15	43
	R2	0	9	73	77
	R3	6	34	59	100
	R4	—	10	79	60
	R5	—	2	48	87

注：「—」は調査なし

表 2.6.2.6 採捕されたアユの体長

項目	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
体長 (cm)	H16	—	—	—	—
	H17	8.0(7.2～9.5)	7.8(7.1～9.0)	7.9(5.0～11.1)	8.3(5.0～12.8)
	H18	—	—	—	—
	H19	—	11.4(11.2～11.5)	8.9(6.4～13.7)	9.9(7.1～14.2)
	H20	—	—	—	—
	H21	—	13.2(10.4～15.6)	8.0(6.0～10.3)	8.6(7.2～10.5)
	H22	10.8(8.8～12.8)	11.4(9.7～14.8)	8.1	7.1
	H23	—	14.6(12.3～18.7)	8.7(6.1～11.0)	7.7(6.1～13.6)
	H24	10.9(8.4～13.2)	10.6(5.9～13.7)	8.0(5.5～12.5)	7.7(6.0～9.7)
	H25	8.5(6.7～10.7)	12.8(8.6～17.0)	7.5(5.7～9.8)	6.1(5.4～7.5)
	H26	—	12.4(10.2～17.8)	6.3(4.5～8.2)	6.7(5.4～8.4)
	H27	7.9(7.0～8.8)	12.9(6.6～16.2)	7.2(5.6～9.7)	6.8(5.2～8.8)
	H28	8.3(7.7～9.3)	11.7(9.7～14.7)	7.2(5.4～10.2)	6.5(5.0～8.8)
	H29	7.0(7.0～7.0)	13.6(8.9～15.3)	8.6(5.1～12.8)	6.7(5.1～9.8)
	H30	—	12.0(8.2～16.0)	7.1(5.2～9.5)	6.6(4.7～8.0)
	H31	10.0(9.8～10.2)	11.7(7.6～14.2)	9.1(8.0～12.2)	8.6(5.9～12.0)
	R2	—	12.8(10.0～15.0)	8.7(7.3～12.2)	8.0(6.4～9.3)
	R3	7.9(6.0～12.0)	13.5(7.9～15.9)	8.3(7.0～11.0)	7.1(6.0～9.7)
	R4	—	13.5(7.4～16.1)	8.2(4.9～14.7)	6.7(5.5～8.7)
	R5	—	16.8(16.8～16.8)	7.5(5.7～12.7)	6.6(5.6～8.0)

注：「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

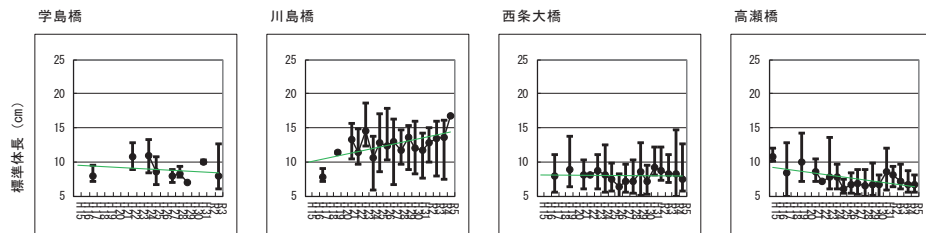


図 2.6.2.7 採捕されたアユの体長

表 2.6.2.7 採捕されたアユの体重

項目	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
体重 (g)	H15	—	—	—	18.2(14.4～21.6)
	H16	—	—	—	—
	H17	7.3(5.4～12.4)	7.2(5.2～11.5)	7.0(2.0～18.2)	10.1(1.4～29.4)
	H18	—	—	—	—
	H19	—	19.8(18.8～20.8)	10.1(2.9～30.9)	14.0(4.0～43.3)
	H20	—	—	—	—
	H21	—	35.2(14.6～58.0)	7.5(3.0～15.0)	7.8(4.0～16.0)
	H22	14.5(6.0～23.0)	18.6(7.0～43.0)	4.0	3.0
	H23	—	43.4(28.0～63.0)	7.5(3.0～14.0)	5.2(2.0～27.0)
	H24	15.8(6.0～27.0)	16.7(3.0～31.0)	6.8(2.0～27.0)	6.2(2.0～10.0)
	H25	9.0(4.0～16.0)	26.6(5.1～57.0)	5.1(2.0～10.0)	3.3(2.0～6.0)
	H26	—	24.3(14.0～64.0)	2.7(1.0～6.0)	3.9(1.0～8.0)
	H27	6.5(4.0～9.0)	30.7(4.0～59.0)	4.9(2.0～11.0)	4.2(2.0～8.0)
	H28	7.2(6.0～9.0)	24.5(12.0～49.0)	4.9(2.0～14.0)	3.1(1.0～8.0)
	H29	4.0(4.0～4.0)	36.4(8.0～52.0)	8.7(2.0～28.0)	2.2(1.0～6.0)
	H30	—	23.3(6.0～55.0)	4.1(1.0～10.0)	3.0(1.0～6.0)
	H31	13.0(12.0～14.0)	24.3(6.0～42.0)	8.9(5.0～23.0)	8.5(3.0～20.0)
	R2	—	29.4(12.0～43.0)	8.6(5.0～24.0)	6.1(3.0～9.0)
	R3	6.2(2.0～18.0)	37.6(7.0～66.0)	6.4(3.0～14.0)	4.2(2.0～8.0)
	R4	—	37.9(5.0～60.0)	7.5(2.0～40.0)	3.3(1.0～7.0)
	R5	—	59.0(59.0～59.0)	5.1(2.0～21.0)	3.0(2.0～5.0)

注：「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

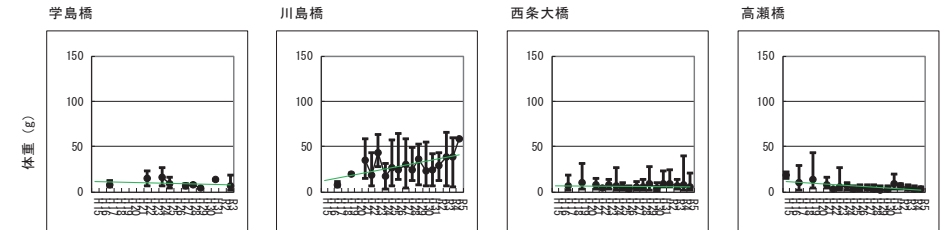


図 2.6.2.8 採捕されたアユの体重

表 2.6.2.8 採捕されたアユの肥満度

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
肥満度	H15	—	—	—	14.4(11.2～16.4)
	H16	—	—	—	—
	H17	14.3(12.2～16.8)	14.9(13.1～17.5)	13.3(11.1～15.4)	13.3(11.0～16.5)
	H18	—	—	—	—
	H19	—	13.5(13.4～13.7)	12.3(10.5～14.2)	12.9(8.6～16.0)
	H20	—	—	—	—
	H21	—	14.9(7.6～18.7)	13.6(10.3～16.6)	11.1(8.4～13.8)
	H22	9.9(8.8～11.0)	12.4(6.6～17.5)	7.5	8.4
	H23	—	13.9(9.5～16.7)	10.9(6.2～13.2)	10.1(6.1～14.6)
	H24	11.6(9.8～13.5)	13.5(9.7～17.0)	12.1(7.7～19.5)	12.3(8.8～14.0)
	H25	13.3(13.1～13.7)	12.4(10.7～14.2)	11.4(6.1～16.2)	14.2(8.4～19.1)
	H26	—	12.5(8.7～16.7)	10.6(6.1～16.0)	13.0(6.4～18.5)
	H27	12.4(11.7～13.2)	13.6(8.7～16.9)	13.1(9.6～16.8)	12.8(9.7～17.4)
	H28	12.6(9.9～14.2)	14.7(12.6～21.0)	12.2(8.4～17.1)	11.1(4.0～19.5)
	H29	11.7(11.7～11.7)	14.3(10.2～17.8)	12.4(6.4～18.0)	6.5(3.5～14.6)
	H30	—	12.9(9.9～17.4)	11.4(5.7～19.1)	10.2(5.7～17.1)
	H31	13.0(12.7～13.2)	14.1(10.7～16.6)	11.2(9.1～13.6)	13.0(10.3～16.6)
	R2	—	13.7(12.0～16.0)	12.0(9.1～14.8)	11.6(8.1～16.8)
	R3	9.9(8.8～10.5)	14.5(12.3～17.3)	10.9(5.2～15.4)	11.7(7.4～16.8)
	R4	—	13.4(12.3～14.4)	12.1(6.5～17.0)	10.8(4.6～14.6)
	R5	—	12.4(12.4～12.4)	11.1(8.4～14.8)	10.3(7.6～14.6)

注：「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い

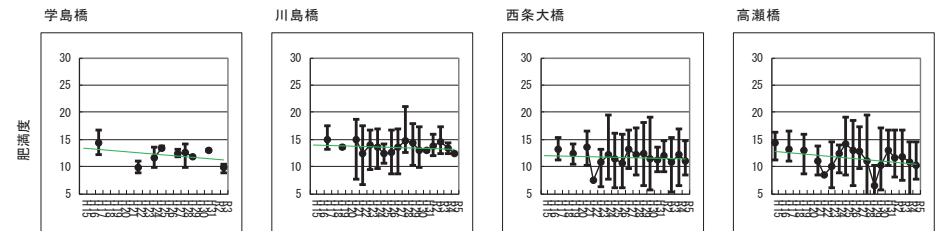


図 2.6.2.9 採捕されたアユの肥満度

②夏季調査

夏季調査においても全地点でアユが採捕されたが、特に、採捕数が多い、特筆すべき地点は無かった。
採捕されたアユの体長・体重・肥満度は、川島地点はほぼ横ばいであるが、その他の地点は減少傾向にある。

表 2.6.2.9 採捕されたアユの尾数

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
採捕 尾数	H15	—	—	2	10
	H16	15	30	33	14
	H17	13	8	38	35
	H18	1	6	16	4
	H19	0	30	15	17
	H20	1	20	8	2
	H21	1	21	6	7
	H22	0	90	4	16
	H23	0	7	8	10
	H24	0	28	12	62
	H25	2	61	25	100
	H26	1	>109	28	74
	H27	21	>103	24	89
	H28	0	73	71	85
	H29	7	>105	45	124
	H30	0	12	87	96
	H31	0	12	33	2
	R2	1	33	1	8
	R3	6	46	50	11
	R4	—	49	24	101
	R5	—	20	41	51

注：「—」は調査なし

表 2.6.2.10 採捕されたアユの体長

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
体長 (cm)	H15	—	—	18.6(18.5~18.6)	14.7(10.3~20.6)
	H16	15.5(13.3~17.3)	12.5(10.0~15.0)	13.4(9.0~17.4)	16.9(13.1~19.0)
	H17	13.5(11.7~16.2)	14.6(13.6~15.7)	13.3(11.3~16.3)	10.1(7.3~15.2)
	H18	14.0	17.7(16.2~19.3)	11.4(9.9~12.4)	9.4(6.8~11.8)
	H19	—	14.5(11.8~19.4)	12.1(6.8~20.4)	10.7(7.8~16.1)
	H20	9.0	16.5(14.5~20.5)	9.8(7.9~13.2)	11.5(10.9~12.0)
	H21	14.0	18.8(16.5~20.0)	9.3(6.9~16.0)	17.4(14.5~19.0)
	H22	—	15.1(7.5~18.3)	9.8(6.6~15.3)	12.2(9.2~15.2)
	H23	—	16.8(14.6~18.0)	10.2(8.4~15.6)	12.8(6.9~17.6)
	H24	—	13.8(7.7~18.5)	8.9(6.5~12.6)	11.6(8.1~17.6)
	H25	11.6(11.2~12.0)	15.5(6.0~20.8)	8.5(6.0~11.2)	10.5(6.5~12.7)
	H26	11.4	15.6(8.7~20.0)	8.2(6.4~12.8)	10.2(7.1~13.8)
	H27	11.5(6.2~16.4)	15.8(7.2~19.3)	7.2(5.8~12.0)	7.3(5.0~14.9)
	H28	—	14.2(11.4~18.8)	8.3(4.9~11.5)	7.8(5.2~11.4)
	H29	11.6(7.9~15.7)	15.0(9.1~17.5)	8.1(5.2~11.0)	7.8(5.1~11.4)
	H30	—	13.8(7.9~16.3)	7.2(5.6~12.7)	6.9(5.5~8.5)
	H31	—	17.0(16.0~18.9)	12.0(9.3~15.2)	9.3(9.2~9.3)
	R2	10.1(10.1~10.1)	15.9(13.1~20.0)	8.5(8.5~8.5)	8.9(8.3~9.7)
	R3	11.2(10.6~11.6)	16.7(13.1~20.7)	9.6(6.7~12.4)	8.8(7.8~10.5)
	R4	—	18.2(14.0~27.5)	9.0(6.3~10.9)	8.4(7.3~11.2)
	R5	—	15.9(14.1~18.1)	9.1(7.0~9.8)	7.6(6.3~9.8)

注：「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

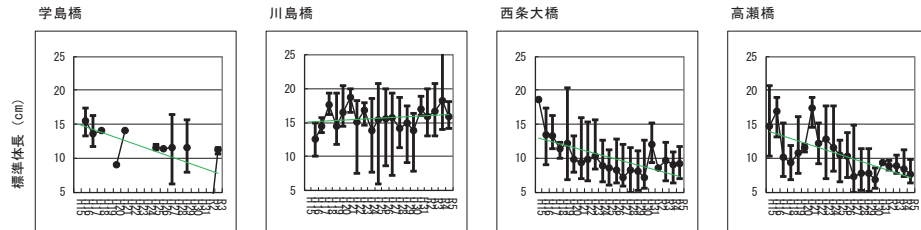


図 2.6.2.10 採捕されたアユの体長

表 2.6.2.11 採捕されたアユの体重

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
体重 (g)	H15	—	—	73.4(66.4~80.4)	47.6(12.5~118.4)
	H16	55.6(28.5~67.2)	28.8(12.3~53.5)	34.6(8.9~74.1)	74.0(36.3~107.8)
	H17	40.5(22.0~73.8)	44.6(34.2~56.0)	37.5(20.4~66.6)	16.0(4.4~53.3)
	H18	35.4	81.3(60.4~99.9)	20.9(14.4~25.4)	14.4(5.2~24.4)
	H19	—	48.5(25.2~101.0)	29.6(3.7~104.9)	19.8(7.1~54.7)
	H20	7.2	59.8(40.9~117.6)	12.5(5.6~30.2)	19.7(15.3~24.1)
	H21	42.0	92.5(64.0~116.0)	11.3(4.0~35.0)	62.4(36.0~77.0)
	H22	—	46.9(8.0~81.0)	15.8(3.0~40.0)	23.2(8.0~40.0)
	H23	—	64.1(44.0~80.0)	15.4(7.0~46.0)	38.0(5.0~80.0)
	H24	—	43.7(8.0~92.0)	9.6(3.0~23.0)	21.2(6.0~68.0)
	H25	22.0(19.0~25.0)	51.0(4.0~117.0)	8.2(2.0~18.0)	15.2(3.0~25.0)
	H26	18.0	54.1(6.0~106.0)	6.9(3.0~21.0)	13.6(3.0~32.0)
	H27	21.1(2.0~49.0)	51.9(4.0~93.0)	4.0(2.0~15.0)	4.3(2.0~35.0)
	H28	—	45.6(23.0~104.0)	8.3(3.0~22.0)	6.3(2.0~20.0)
	H29	19.4(5.0~46.0)	52.8(7.0~86.0)	6.9(1.0~17.0)	6.5(1.0~22.0)
	H30	—	38.0(6.0~55.0)	4.7(2.0~21.0)	3.8(2.0~7.0)
	H31	—	62.6(52.0~75.0)	23.8(5.0~46.0)	9.0(9.0~9.0)
	R2	13.0(13.0~13.0)	47.8(31.0~94.0)	6.0(6.0~6.0)	8.3(7.0~12.0)
	R3	18.0(16.0~20.0)	67.5(28.0~122.0)	12.4(4.0~26.0)	8.2(5.0~15.0)
	R4	—	86.3(44.0~116.0)	10.2(4.0~18.0)	8.0(6.0~18.0)
	R5	—	60.8(42.0~85.0)	10.6(5.0~22.0)	5.4(3.0~13.0)

注：「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

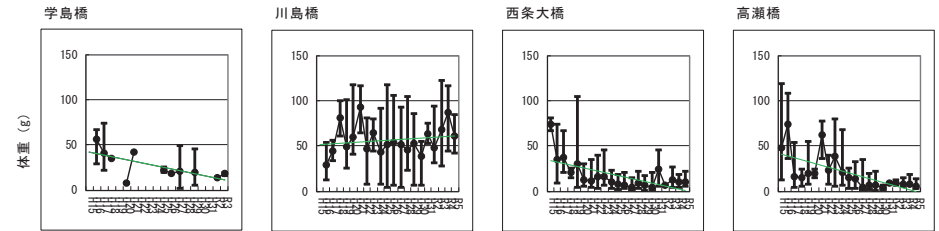


図 2.6.2.11 採捕されたアユの体重

表 2.6.2.12 採捕されたアユの肥満度

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
肥満度	H15	—	—	11.5(10.5~12.5)	12.6(11.4~13.9)
	H16	14.7(10.4~16.5)	14.1(11.4~16.5)	13.3(10.2~16.2)	15.0(11.1~16.1)
	H17	15.7(13.7~18.1)	14.3(13.0~15.7)	15.5(12.5~18.6)	13.5(11.2~17.3)
	H18	12.9	14.7(13.9~15.4)	14.2(11.7~18.8)	15.1(13.0~16.5)
	H19	—	16.2(11.4~59.9)	13.3(10.4~26.8)	14.4(12.9~16.4)
	H20	9.9	13.2(11.4~15.4)	12.0(9.4~14.1)	12.9(11.8~13.9)
	H21	15.3	13.8(12.1~14.9)	11.9(8.5~15.2)	11.6(10.3~12.2)
	H22	—	13.3(11.1~19.0)	12.0(10.4~14.6)	12.3(10.3~17.8)
	H23	—	13.4(12.1~14.1)	12.9(11.8~14.6)	14.5(11.9~16.5)
	H24	—	15.2(12.1~20.0)	12.4(10.3~14.6)	12.4(11.0~14.7)
	H25	14.0(13.5~14.5)	12.2(10.0~17.1)	12.0(6.4~14.6)	12.7(9.4~16.5)
	H26	12.1	13.7(9.1~17.1)	11.6(8.7~14.7)	12.0(7.1~23.3)
	H27	9.4(4.4~12.6)	12.6(9.5~14.8)	10.0(5.7~15.2)	9.8(6.3~17.6)
	H28	—	15.3(12.7~17.7)	13.8(9.1~25.5)	12.0(4.6~21.6)
	H29	12.2(10.1~13.8)	15.3(5.4~21.1)	12.0(7.1~18.3)	11.9(4.2~16.2)
	H30	—	13.6(11.9~16.7)	12.2(8.5~17.6)	11.1(7.6~13.9)
	H31	—	12.8(11.1~14.8)	12.9(6.2~18.3)	11.4(11.2~11.6)
	R2	12.6(12.6~12.6)	11.8(9.1~13.9)	9.8(9.8~9.8)	11.5(10.2~13.1)
	R3	13.0(11.8~14.3)	14.0(11.9~15.9)	13.2(10.5~15.6)	11.6(8.7~14.0)
	R4	—	14.5(4.0~17.7)	13.7(11.6~16.3)	13.5(10.8~17.5)
	R5	—	15.0(12.2~16.5)	13.5(11.0~15.9)	12.1(7.7~15.9)

注：「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

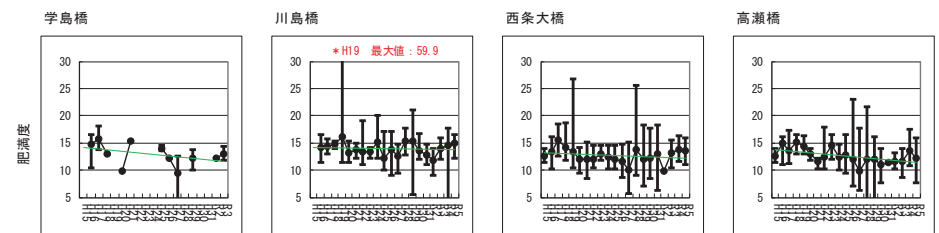


図 2.6.2.12 採捕されたアユの肥満度

③秋季調査

本年度の秋季調査では、西条大橋地点が特に多く、川島橋地点でも多かった。魚類調査(潜水目視含む)では、学島橋地点で51尾、第十堰貯水池地点で101尾を確認しており、昨年度に続き、本年度もアユは、豊富であったことが推察される。

採捕されたアユの体長、体重、肥満度は、ばらつきがあり、小さな(軽い)個体もいれば、大きな(重い)個体も確認できた。この傾向は、昨年度より続いている。

表2.6.2.13 採捕されたアユの尾数

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
採捕 尾数	H15	—	—	—	>30
	H16	0	14	13	33
	H17	4	—	—	35
	H18	34	2	19	3
	H19	0	61	6	30
	H20	0	15	4	11
	H21	2	36	16	85
	H22	25	149	14	183
	H23	1	38	357	1
	H24	1	98	>102	>100
	H25	132	129	46	65
	H26	0	26	90	2
	H27	9	>102	118	>140
	H28	105	105	132	132
	H29	22	8	65	0
	H30	0	91	18	2
	H31	0	45	0	4
	R2	0	51	0	101
	R3	2	100	105	62
	R4	—	>100	>204	29
	R5	—	>102	>158	28

注:「—」は調査なし

表2.6.2.14 採捕されたアユの体長

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
体長 (cm)	H15	—	—	—	19.1(16.5~23.6)
	H16	—	18.2(16.7~19.6)	15.2(13.5~17.5)	16.5(14.1~19.6)
	H17	14.5(13.3~15.5)	—	—	14.4(9.8~19.0)
	H18	15.9(10.4~20.8)	19.0(18.2~19.8)	12.2(9.9~15.3)	12.6(9.3~16.2)
	H19	—	17.6(13.2~23.8)	13.8(11.1~16.0)	14.0(9.8~17.3)
	H20	—	19.1(16.5~21.4)	10.8(9.5~12.3)	14.2(12.6~16.0)
	H21	17.5(13.5~21.5)	19.5(17.1~22.9)	12.7(10.3~20.5)	16.7(11.2~23.6)
	H22	16.9(12.0~21.0)	18.8(12.0~22.5)	12.7(9.1~16.7)	14.8(10.0~22.3)
	H23	17.9	18.0(14.9~20.6)	15.3(10.0~21.5)	13.1
	H24	16.6	17.8(13.7~22.0)	17.7(14.2~21.0)	13.9(10.7~21.0)
	H25	14.8(10.0~18.5)	16.1(11.7~21.6)	15.6(10.9~21.2)	15.2(9.2~19.8)
	H26	—	18.4(15.6~24.0)	15.7(10.4~25.8)	13.2(13.0~13.4)
	H27	15.5(14.3~16.7)	18.3(12.0~23.8)	15.9(8.3~23.5)	10.4(7.6~17.5)
	H28	18.9(14.6~22.9)	18.8(15.3~23.9)	14.7(7.4~23.0)	13.3(8.1~17.9)
	H29	14.2(11.2~18.0)	17.4(14.3~21.2)	16.1(8.7~22.5)	—
	H30	—	17.1(13.4~22.6)	12.4(10.0~15.7)	15.9(14.5~17.3)
	H31	—	20.9(11.5~26.1)	—	18.8(14.8~17.9)
	R2	—	19.9(16.6~22.6)	—	18.4(13.3~23.1)
	R3	16.3(14.5~18.0)	19.3(15.4~24.2)	18.0(10.0~25.4)	14.9(10.8~24.7)
	R4	—	17.2(13.5~22.1)	16.1(9.8~22.5)	16.8(12.8~22.5)
	R5	—	18.5(15.6~23.7)	14.1(10.4~17.8)	14.8(9.1~22.9)

注:「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

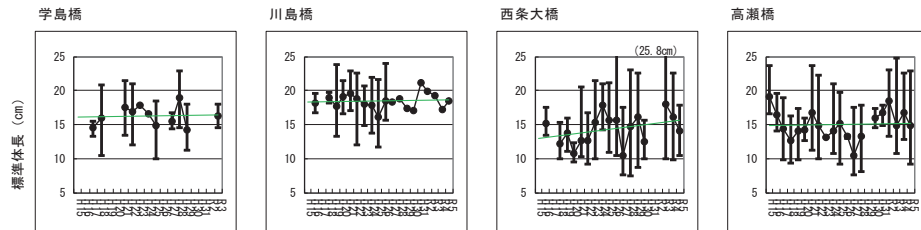


図2.6.2.13 採捕されたアユの体長

表2.6.2.15 採捕されたアユの体重

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
体重 (g)	H15	—	—	—	102.0(62.9~171.0)
	H16	—	88.7(68.9~114.6)	41.0(27.2~62.7)	61.0(38.4~108.2)
	H17	30.3(20.5~40.6)	—	—	44.5(11.1~88.6)
	H18	56.4(17.3~131.5)	95.3(91.2~99.3)	26.0(17.0~42.1)	31.7(8.7~57.5)
	H19	—	88.1(29.0~212.0)	37.0(20.0~53.0)	35.8(13.0~64.0)
	H20	—	105.5(69.4~144.0)	21.7(14.6~26.5)	39.0(22.9~55.6)
	H21	78.5(42.0~115.0)	102.3(71.0~156.0)	32.6(14.0~101.0)	57.4(19.0~148.0)
	H22	64.1(32.0~116.0)	85.0(38.0~144.0)	28.3(11.0~58.0)	39.7(12.0~128.0)
	H23	59.0	67.9(39.0~102.0)	40.0(11.0~90.0)	17.0
	H24	51.0	69.6(31.0~113.0)	66.6(30.0~116.0)	33.9(14.0~106.0)
	H25	41.3(13.0~75.0)	54.3(17.0~108.0)	44.3(15.0~101.0)	37.8(10.0~75.0)
	H26	—	71.8(42.0~156.0)	41.7(11.0~115.0)	24.0
	H27	44.9(30.0~73.0)	87.3(20.0~206.0)	61.7(5.0~178.0)	15.3(4.0~74.0)
	H28	77.4(22.0~130.0)	86.3(42.0~195.0)	40.4(2.0~132.0)	23.5(6.0~64.0)
	H29	34.3(15.0~54.0)	55.9(30.0~93.0)	40.1(6.0~94.0)	—
	H30	—	64.9(34.0~145.0)	25.6(14.0~46.0)	49.5(41.0~58.0)
	H31	—	127.3(67.0~251.0)	—	55.8(35.0~65.0)
	R2	—	104.9(59.0~165.0)	—	81.0(31.0~224.0)
	R3	52.5(38.0~67.0)	100.6(54.0~180.0)	82.9(18.0~184.0)	48.2(15.0~205.0)
	R4	—	70.3(38.0~141.0)	54.4(12.0~146.0)	59.4(22.0~139.0)
	R5	—	85.8(47.0~175.0)	37.0(15.0~79.0)	44.7(9.0~156.0)

注:「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

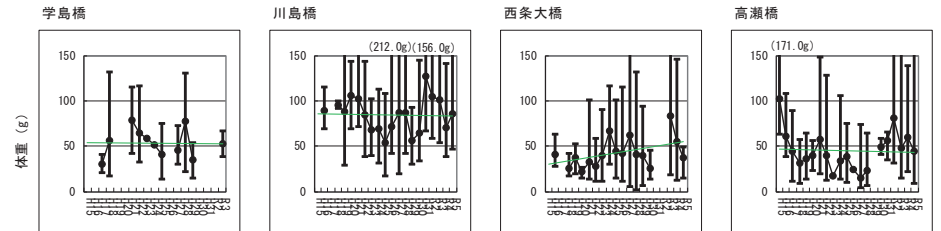


図2.6.2.14 採捕されたアユの体重

表2.6.2.16 採捕されたアユの肥満度

	年度	調査地点			
		学島橋	川島橋	西条大橋	高瀬橋
肥満度	H15	—	—	—	14.5(11.5~23.6)
	H16	—	14.7(12.4~16.9)	11.4(9.1~14.7)	13.6(10.9~16.8)
	H17	9.8(8.7~10.9)	—	—	13.8(11.8~17.3)
	H18	13.4(10.7~17.2)	14.0(12.8~15.1)	14.2(10.7~21.7)	13.4(10.8~15.9)
	H19	—	14.6(11.6~19.6)	13.8(12.9~14.6)	12.7(10.0~15.2)
	H20	—	15.1(13.3~17.4)	17.6(12.9~23.6)	13.2(11.4~14.1)
	H21	14.3(11.6~17.1)	13.5(10.3~15.7)	14.9(11.3~23.5)	11.6(8.5~15.4)
	H22	12.5(10.7~14.9)	12.4(8.9~16.3)	12.4(10.5~14.6)	11.7(7.0~22.5)
	H23	10.3	11.4(8.4~14.0)	10.9(7.6~16.8)	7.6
	H24	11.1	12.2(7.6~15.8)	11.7(9.1~18.0)	11.6(9.3~15.1)
	H25	12.3(6.7~16.3)	12.5(8.8~16.4)	11.0(8.2~13.6)	9.8(6.6~13.7)
	H26	—	11.3(9.1~13.3)	10.2(6.2~17.2)	10.4(10.0~10.9)
	H27	11.9(9.9~15.7)	13.7(9.2~17.9)	13.2(6.6~24.0)	13.1(7.2~19.0)
	H28	11.3(5.5~19.8)	12.7(9.1~17.1)	11.1(1.3~16.0)	11.6(8.9~15.0)
	H29	11.8(9.0~16.1)	10.2(9.2~11.6)	8.9(6.9~13.8)	—
	H30	—	12.8(8.9~16.8)	13.0(9.8~18.0)	12.3(11.2~13.4)
	H31	—	14.6(9.8~17.1)	—	11.5(10.8~12.0)
	R2	—	13.2(11.1~16.7)	—	12.6(8.9~24.6)
	R3	12.0(11.5~12.5)	13.7(11.4~18.3)	13.5(10.6~18.0)	12.6(9.3~15.6)
	R4	—	13.5(10.4~18.3)	11.9(8.4~16.3)	12.0(9.2~16.9)
	R5	—	13.2(10.6~19.2)	12.7(8.3~20.4)	12.9(10.6~14.5)

注:「—」は調査なし もしくは、採捕数が無い。

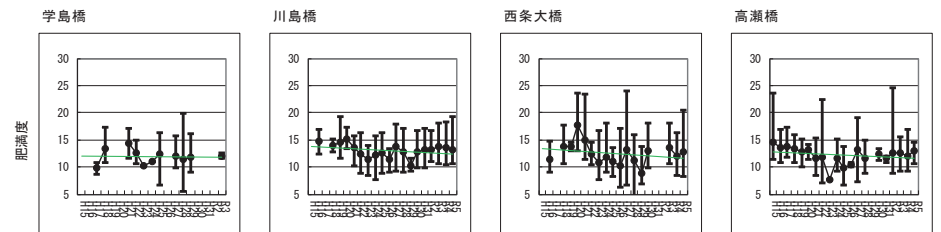


図2.6.2.15 採捕されたアユの肥満度

56

名田橋

確認種数は平成14年度が11種、平成15年度が7種、平成16年度が4種、平成17年度が5種、平成18年度が1種、平成19年度が9種、平成20年度が9種、平成21年度が8種、平成22年度が7種、平成23年度が4種、平成24年度が3種、平成25年度が5種、平成26年度が3種、平成27年度が1種、平成28年度が2種、平成29年度が5種、平成30年度が2種、令和1年度が3種、令和2年度が5種、令和3年度が3種、令和4年度が6種であった。全調査期間を通して合計22種が確認され、腹足綱が11種、二枚貝綱が11種確認された。なお、本年より調査は実施していない。

- | 調査地点 | 春季 | 夏季 | 秋季 | 冬季 |
|------|-------|-------|--------|-------|
| 名田橋 | 6月16日 | 8月11日 | 10月20日 | 1月10日 |

- 〇〇〇〇は平成14年度と平成15年度において各季とも干潟及び流水の両環境で確認されていたが、平成16年度から平成17年度にかけて確認頻度が低くなった。平成18年度以降は、両環境で確認されている。平成23年度の出水で〇〇〇〇は大きな影響を受けたが、回復基調にある。なお、〇〇〇〇については毎年10月に約1tの稚貝を放流している。

その他にコウロエンカワヒバリガイは平成23年度春季調査から確認されていなかったが、令和4年度の夏季調査において再確認された。平成16年度の出水以前はそれほどみられなかったホトトギスガイは、平成18年度以降に著しく増加した後、平成22年度以降減少した。平成25年度の春季では再び多く確認され、平成29年度、令和1年度、令和2年度には少量であるが確認されている。

また、令和3年度と令和4年度は、流水において比較的多くの個体が確認されている。

令和4年度の春季および夏季調査において、通水試験が始まった平成26年度以降確認されていなかったカワザンショウガイが確認された。

(單位：個體數)

姓名	性别	籍贯	民族	出生日期	学历		学位		职称		职务		工作经历		业绩		荣誉		其他		备注		
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
陈亮	男	浙江	汉族	1985-01-01	本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
陈亮	男	浙江	汉族	1985-01-01	本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
陈亮	男	浙江	汉族	1985-01-01	本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
陈亮	男	浙江	汉族	1985-01-01	本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他
					本科	硕士	博士	博士后	教授	副教授	讲师	助教	研究员	副研究员	助理研究员	实验员	技术工人	其他	其他	其他	其他	其他	其他

凡例) ○：干潟における確認種 ●：流水における確認種 網掛けは未実施

重要種の選定基準)①:「環境省レッドリスト2020」(環境省 2020年3月27日発表)

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

②：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」—レッドデータブック—6 陸・淡水産貝類（環境省 2005 年）

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

③：「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」(水産庁編 1998 年)

絶：絶滅危惧種、危：危急種、希：希少種、減：減少種、傾：減少傾向、普：普通種

④：「徳島県版レッドリスト 其他無脊椎動物リスト＜平成 25 年改定＞」（徳島県 2013 年）

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、AN: 留意、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

大津橋

確認種数は平成14年度が4種、平成15年度が2種、平成16年度が6種、平成17年度が4種、平成18年度が4種、平成19年度が5種、平成20年度が4種、平成21年度が5種、平成22年度が4種、平成23年度が7種、平成24年度が1種、平成25年が1種、平成26年が0種、平成27年が2種、平成28年が1種、平成29年が5種、平成30年が2種、令和1年度が3種、令和2年度が4種、令和3年度が2種、令和4年度が2種であった。経年を通して種類数及び個体数は、名田橋に比べ少ない傾向がみられた。全調査期間を通して合計12種が確認され、二枚貝が8種と比較的多く確認された。なお、本年度から調査は実施していない。

・ 調査日（令和 4 年度）

調査地点	春季	夏季	秋季	冬季
大津橋	6月15日	8月10日	10月19日	1月10日

貝類確認種

経年的によく確認されている種は、ホトトギスガイ、XXXXXXXXXX、ソトオリガイの3種であるが、いずれも個体数は限られている。

本調査地点は出水の影響などがほとんどなく、環境変化（特に底質）が少ないものと考えられる。このため、貝類の種構成は経年的に著しく変化することが少ないと考えられる。なお、通水試験が始まった平成26年度、北部幹線が開通した平成29年度以降で、貝類の出現状況に大きな変化は見られていない。

表 2.6.4.2 大津橋地点における貝類確認状況

序号	姓名	性别	出生日期	身份证号	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		2029年度		2030年度		2031年度		2032年度		2033年度		2034年度		2035年度		2036年度		2037年度		2038年度		2039年度		2040年度		2041年度		2042年度		2043年度		2044年度		2045年度		2046年度		2047年度		2048年度		2049年度		2050年度		2051年度		2052年度		2053年度		2054年度		2055年度		2056年度		2057年度		2058年度		2059年度		2060年度		2061年度		2062年度		2063年度		2064年度		2065年度		2066年度		2067年度		2068年度		2069年度		2070年度		2071年度		2072年度		2073年度		2074年度		2075年度		2076年度		2077年度		2078年度		2079年度		2080年度		2081年度		2082年度		2083年度		2084年度		2085年度		2086年度		2087年度		2088年度		2089年度		2090年度		2091年度		2092年度		2093年度		2094年度		2095年度		2096年度		2097年度		2098年度		2099年度		2100年度		2101年度		2102年度		2103年度		2104年度		2105年度		2106年度		2107年度		2108年度		2109年度		2110年度		2111年度		2112年度		2113年度		2114年度		2115年度		2116年度		2117年度		2118年度		2119年度		2120年度		2121年度		2122年度		2123年度		2124年度		2125年度		2126年度		2127年度		2128年度		2129年度		2130年度		2131年度		2132年度		2133年度		2134年度		2135年度		2136年度		2137年度		2138年度		2139年度		2140年度		2141年度		2142年度		2143年度		2144年度		2145年度		2146年度		2147年度		2148年度		2149年度		2150年度		2151年度		2152年度		2153年度		2154年度		2155年度		2156年度		2157年度		2158年度		2159年度		2160年度		2161年度		2162年度		2163年度		2164年度		2165年度		2166年度		2167年度		2168年度		2169年度		2170年度		2171年度		2172年度		2173年度		2174年度		2175年度		2176年度		2177年度		2178年度		2179年度		2180年度		2181年度		2182年度		2183年度		2184年度		2185年度		2186年度		2187年度		2188年度		2189年度		2190年度		2191年度		2192年度		2193年度		2194年度		2195年度		2196年度		2197年度		2198年度		2199年度		2200年度		2201年度		2202年度		2203年度		2204年度		2205年度		2206年度		2207年度		2208年度		2209年度		2210年度		2211年度		2212年度		2213年度		2214年度		2215年度		2216年度		2217年度		2218年度		2219年度		2220年度		2221年度		2222年度		2223年度		2224年度		2225年度		2226年度		2227年度		2228年度		2229年度		2230年度		2231年度		2232年度		2233年度		2234年度		2235年度		2236年度		2237年度		2238年度		2239年度		2240年度		2241年度		2242年度		2243年度		2244年度		2245年度		2246年度		2247年度		2248年度		2249年度		2250年度		2251年度		2252年度		2253年度		2254年度		2255年度		2256年度		2257年度		2258年度		2259年度		2260年度		2261年度		2262年度		2263年度		2264年度		2265年度		2266年度		2267年度		2268年度		2269年度		2270年度		2271年度		2272年度		2273年度		2274年度		2275年度		2276年度		2277年度		2278年度		2279年度		2280年度		2281年度		2282年度		2283年度		2284年度		2285年度		2286年度		2287年度		2288年度		2289年度		2290年度		2291年度		2292年度		2293年度		2294年度		2295年度		2296年度		2297年度		2298年度		2299年度		2300年度		2301年度	
----	----	----	------	------	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--

凡例) ○：干潟における確認種 ●：流水における確認種 網掛けは未実施

重要種の選定基準)①:「環境省レッドリスト2020」(環境省 2020年3月27日発表)

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

②：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」—レッドデータブック—6 陸・淡水産貝類（環境省 2005 年）

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

③:「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」(水産庁編 1998 年)

絶：絶滅危惧種、危：危急種、希：希少種、減：減少種、傾：減少傾向、普：普通種

④：「徳島県版レッドリスト その他無脊椎動物リスト＜平成25年改定＞」（徳島県 2013年）

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、AN:留意、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

貝類資源量

①

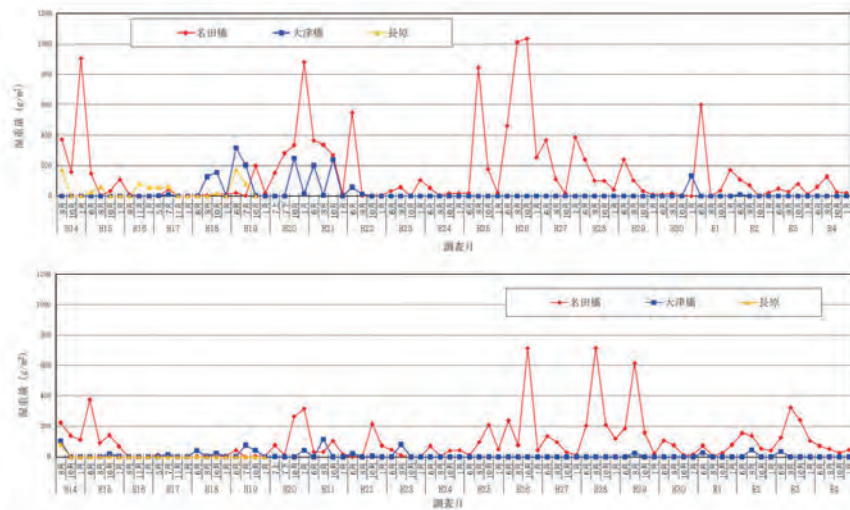
本種は河口の汽水域の砂泥底に生息する種であり、食用として需要があり漁獲対象とされている。
 の地点ごとの資源量をみると、資源量は名田橋地点の干潟が最も多く、次いで、名田橋地点の流水で多い傾向にあった。長原地点及び大津橋地点の流水においては、確認されないことが多く、資源量も少ない傾向にあった。なお、長原地点では平成20年度以降は調査を実施していない。

最も資源量が多かった名田橋地点の経年変化を見ると、平成16年度以降、大幅に減少していたが、平成19年度からは資源量の回復傾向がみられていた。最近では、平成23年9月の出水による成貝及び稚貝の流出により一時的に減少したが、平成24年度以降は回復傾向が見られた。令和4年度の調査でも比較的多くの資源量が確認された。

表 2.6.4.3 の資源量 (g/m²)

地点\時期	平成14年度				平成15年度				平成16年度				平成17年度				平成18年度				平成19年度				平成20年度			
	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	7月	12月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	7月	10月	1月	7月上旬	7月下旬	10月	1月	
干潟	名田橋	372.18	156.88	905.88	146.72	2.88	33.76	199.44	9.12	0	0	0	44.67	6.80	0.00	3.20	5.12	11.84	12.17	21.00	6.70	198.03	21.85	151.91	289.29	234.52	278.62	
	大津橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.12	9.60	0.00	0.00	0.00	128.64	154.24	0.00	0.00	0.00	0	0	248.21	14.58	
	長原	9	172.16	0	0	26.72	61.78	0	0	0	81.60	55.68	56.90	62.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	17.00	0	171.87	89.14	0	0	
流水	名田橋	223.41	140.22	111.70	375.26	90.07	142.22	68.30	0	2.13	0	10.00	0	0	0	2.20	1.00	4.33	15.83	5.00	41.93	0.00	5.18	9.90	76.31	10.51	285.73	
	大津橋	102.59	0	0	0	0	0	18.37	0.15	0	0	0	0	0	0	39.90	1.17	24.67	0	1.68	76.99	43.03	0	1.49	0	0.05	42.12	
	長原	88.15	0	0	0	0	0	0.15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地点\時期	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月
干潟	名田橋	364.76	336.13	766.93	15.68	548.96	0.96	0.64	4.95	33.28	60.32	0	107.04	53.85	3.60	10.20	10.04	20.64	845.44	177.28	20.00	463.20	1010.40	1030.10	254.72	306.24	111.20	19.36
	大津橋	201.91	4.08	529.61	0.13	88.56	11.85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流水	名田橋	31.80	32.14	102.70	15.07	0.15	1.60	216.15	73.17	46.40	6.30	0	69.29	0.32	30.55	42	9.92	86.00	209.12	49.20	237.73	76.63	712.63	42.41	135.90	94.95	29.40	
	大津橋	0	114.31	0	0	21.60	0	5.25	0	0	82.20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地点\時期	平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和2年度				令和3年度				令和4年度							
	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月
干潟	名田橋	240.00	100.32	99.84	42.56	239.25	102.40	34.56	10.88	10.88	18.24	3.36	0	599.52	0	36.32	172.96	109.60	69.60	0	24.48	48.48	39.24	78.72	11.36	62.88	127.52	25.92
	大津橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流水	名田橋	205.35	714.60	211.20	118.80	186.00	614.70	159.15	20.40	105.30	76.05	10.95	11.55	72.00	5.10	23.55	78.00	154.20	138.00	54.15	38.85	124.50	322.92	249.75	103.05	71.55	51.75	
	大津橋	0	0	0	0	0	0	24.15	0	0	0	0	0	26.70	0	0	0	46.35	0.00	0	24.50	0	0	0	0	0	0	0
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

図 2.6.4.1 の資源量 (上段：干潟、下段：流水)



② アサリ

本種は潮間帯から水深10m程度の砂泥底に生息する種であり、同様に食用として需要があり漁獲対象とされる。

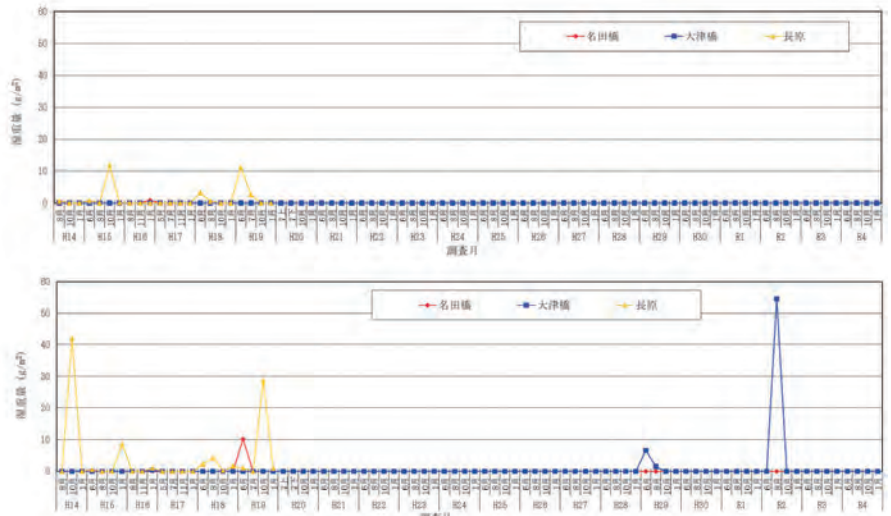
アサリの地点ごとの資源量をみると、名田橋地点及び大津橋地点ではほとんど確認されておらず、平成19年度まで調査を実施していた長原地点において確認頻度が高い傾向にあった。平成20年度以降、平成28年度までは全ての地点で確認されていなかったが、平成29年度、令和2年度調査では大津橋の流水で確認された。なお、令和4年度の貝類調査では確認されなかった。

経年変化を見ると、最も確認頻度の高かった長原地点においても確認できなかった年があり、また、資源量は最大でも大津橋の54.45g/m²と少ないことから、アサリの資源量は貧弱であると考えられる。

表 2.6.4.4 アサリの資源量 (g/m²)

地点・時期	平成14年度				平成15年度				平成16年度				平成17年度				平成18年度				平成19年度				平成20年度			
	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	5月	7月	11月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	7月	10月	1月	7月上旬	7月下旬	10月	1月	
干潟	名田橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	大津橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	長原	0.45	0	0	0.74	0	11.70	0.16	0	0	0	0	0	0	0	0	3.57	6.48	0	0	11.25	2.56	0	0				
	名田橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10.23	0	0	0	0	0	0	
流水	大津橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	長原	0.00	42.07	0	0.44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.25	4.25	0.17	1.58	1.06	0	28.62	0.95				
	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月
干潟	名田橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	大津橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	名田橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流水	大津橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和2年度				令和3年度				令和4年度							
	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月	6月	8月	10月	1月
干潟	名田橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	大津橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	名田橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流水	大津橋	0	0	0	0	0	6.03	1.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	長原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

図 2.6.4.2 アサリの資源量 (上段：干潟、下段：流水)



5) スジアオノリ生育状況調査

・ 令和4年度の傾向

調査を行った吉野川本川においては、種付け後、成長が良くなかったが、12月下旬頃から急激に成長が見られた。令和4年度は、ここ数年より収量がかなり良かった。乾燥重量は、1月10日の調査において最も重かった。
なお、本年度から調査は実施していない。

表2.6.5.1 スジアオノリの平均葉長および乾燥重量

調査地点	項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
吉野川①	平均葉長(mm)	124.3	99.8	257.5	394.5	393.9	306.1	181.3
	乾燥重量(g)	1.44	1.06	8.69	24.17	20.87	12.88	5.96

・ 調査日及び調査地点（令和4年度）

調査地点	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
吉野川①	11月30日	12月13日	12月26日	1月10日	1月17日	1月30日	2月14日

・ 調査結果

平均葉長及び乾燥重量をみると、吉野川本川は旧吉野川及び今切川より生長が良い傾向がみられた。経年的には、スジアオノリの生育状況は大きく変動していた。生育の良い年は、平成14、15、17、20年度、21年度、22年度、26年度、令和3年度、4年度であり、その他の年度ではスジアオノリの生育は良くなかった。

一般に、スジアオノリは、成熟して葉端が溶ける条件が水温20～25℃、塩分濃度5.0～52.0‰、胞子が放出される条件が水温20～25℃、塩分濃度13.2～45.3‰、伸長する条件が水温15～20℃、塩分濃度15.7～35.0‰とされている。また漁業者の経験値としてノリの生育が良いのは水温16～17℃、塩分濃度は24～28‰とされている。

旧吉野川では、平成21年度以降、多少の生長がみられるものの、収穫できる大きさまで伸びることはなく、令和3年度も平均葉長及び乾燥重量の値が非常に低い状況が続いている。塩分濃度が全体として低いうえに堰の開閉の影響を受けて濁度や塩分濃度の変動が大きく安定しないことが要因と考えられる。

なお、両河川とも通水試験が始まった平成26年度以降および北部幹線開通した平成29年度以降で、スジアオノリの生育状況に大きな変化は見られていない。

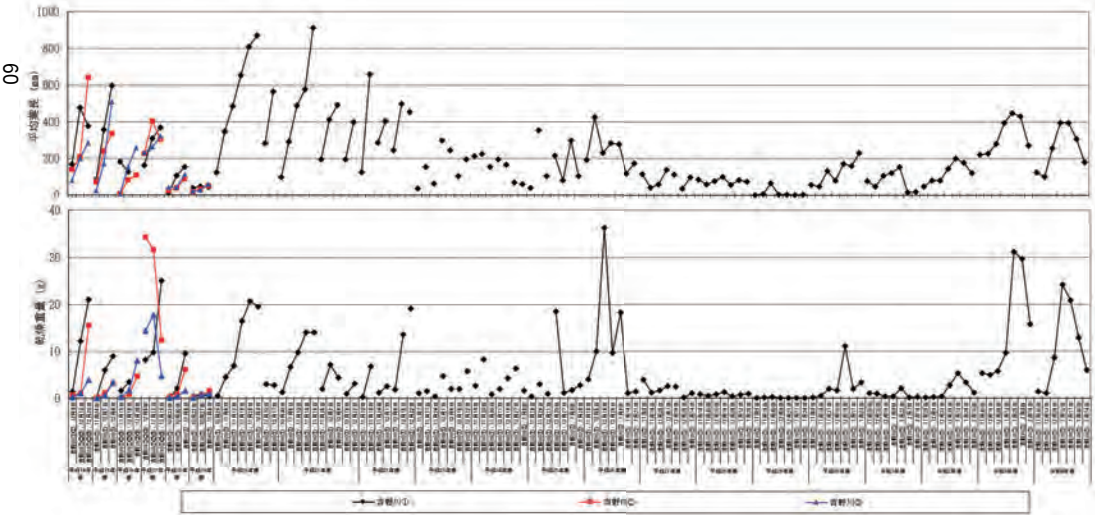


図 2.6.5.1 スジアオノリの平均葉長および乾燥重量（吉野川本川）

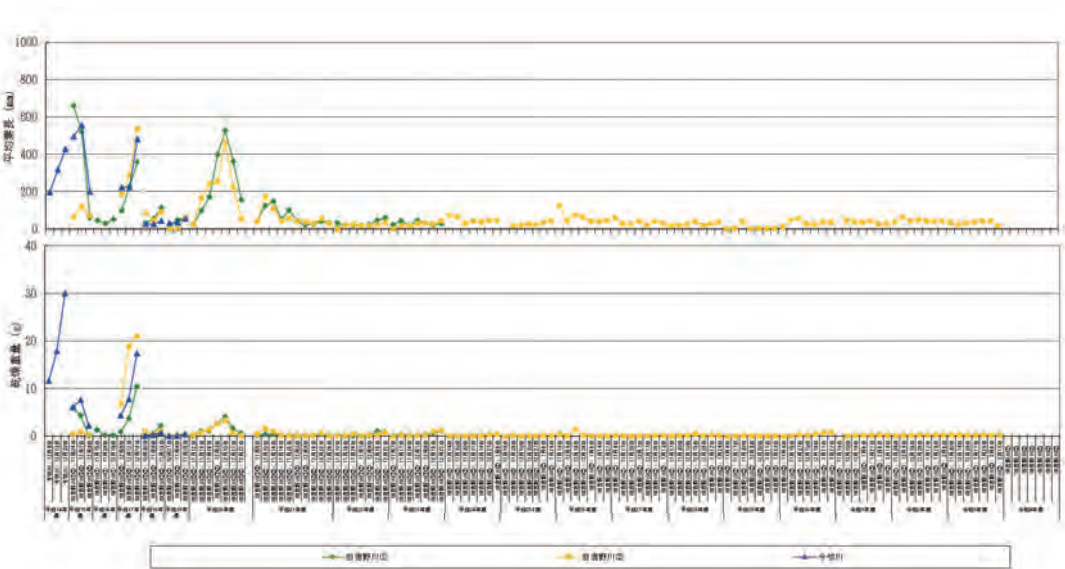


図 2.6.5.2 平均葉長および乾燥重量（旧吉野川および今切川）

6) ワカメ生育状況調査

・ 令和4年度の傾向

ワカメの平均葉長及び平均葉幅(30株)を、下表に示す。

平均葉長は、いずれも地点①が地点②よりも成長が良かった。これは地点①、②ともに例年より水温が高い影響で魚の食害を受けていたが、地点②では地点①よりも被害が大きく、12月10日に再度種付けを行ったことの影響と考えられ、生育環境の違いによるものではないと思われる。また、平均葉幅も1回目、2回目は食害の影響があり、平均葉長と同様の傾向を示していたが、3回目はほぼ同じ葉幅となり、4回目には地点①よりも地点②の成長が良かった。これは、地点①よりも地点②の海流が緩やかであり、葉長より葉幅が成長したためと考えられる。

なお、本年度から調査は実施していない。

調査地点	項目	第1回	第2回	第3回	第4回
地点①	平均葉長(mm)	129	1186	2050	2204
	平均葉幅(mm)	44	417	557	747
地点②	平均葉長(mm)	73	709	1773	1988
	平均葉幅(mm)	31	246	555	780

・ 調査日及び調査地点 (令和4年度)

調査地点	第1回	第2回	第3回	第4回
地点①②	12月13日	1月17日	2月14日	3月1日

・ 調査結果

ワカメの平均葉長及び平均葉幅(30株)を右図に示す。

経年の生長状況を比較すると、令和4年度の調査では、葉長、葉幅ともロープ展開直後の段階では地点①、②いずれも食害の影響で平年より悪かったが、地点①は第2回目には平年並みとなっていた。地点②は、食害の影響が大きく、再度種付けを行ったため、引き続き平年より悪い状況となっていたが、3回目以降はほぼ平年並みとなっていた。

なお、通水試験が始まった平成26年度、北部幹線が開通した平成29年度以降で、ワカメの生育状況に大きな変化は見られていない。

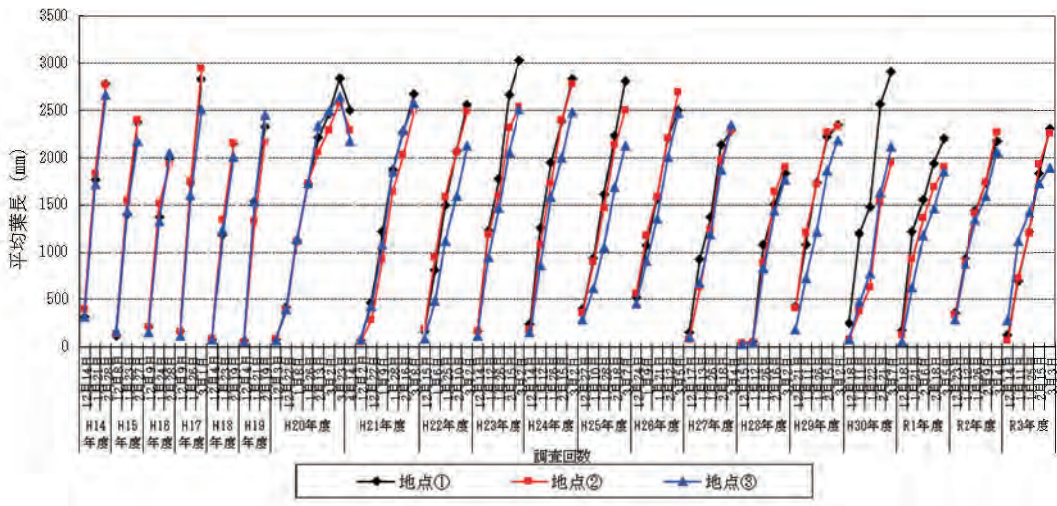


図 2.6.6.1 ワカメ平均葉長の経年変化

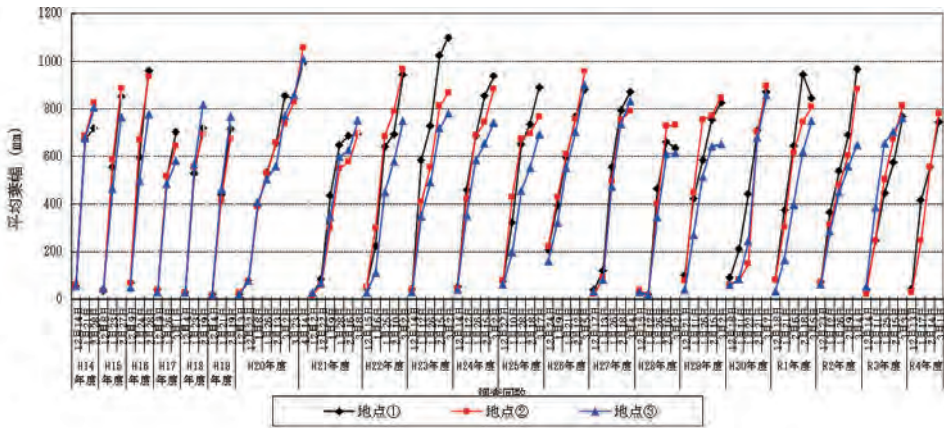


図 2.6.6.2 ワカメ平均葉幅の経年変化

7) 植生断面調査

・ 令和5年度の傾向

①旧吉野川 23.4 km地点

左岸は、6月～7月にかけて陸側はセイバンモロコシ群落、オギ群落、セイトカアワダチソウ群落が安定して分布していた。8月以降はカナムグラ群落分布を拡大し、10月には大部分を被覆していた。水際にはツルヨシ群落安定して分布しており、8月以降は水中でセキショウモ群落も確認された。

右岸は、陸側では6月はクズ群落が大部分を被覆していたが、7月以降はカナムグラ群落に置き換わり、10月にはツルヨシ群落の分布域まで拡大した。水際には左岸と同様にツルヨシ群落が継続的に優占しており、水中では安定してセキショウモ群落形成されていた。

②旧吉野川 18.6km 地点

左岸は季節を通してシブヤザサ群落形成されていた。水中では7月にオオカナダモ群落確認され、8月以降はセキショウモ群落が継続的に確認された。

右岸は6月調査時にはセイトカワダチソウ群落、オギ群落、クズ群落で広く占められていたが、7月以降カナムグラ群落分布を拡大し、10月には大部分が被覆されていた。水際部は、ヨシ群落がわずかな範囲であるが継続的に形成されており、水中では7月以降オオカナダモ群落が継続的に形成されていた。

③旧吉野川 6.4 km地点

左岸ではセイバンモロコシ群落、チガヤ群落安定して分布し、メドハギ群落、シバ群落、ギョウギシバ群落等の比較的乾燥に強い種が季節によって分布していた。

右岸は、陸側の高水敷の草地では、6月はネズミギ群落、8月はギョウギシバ群落、10月はシマスズメノヒエ群落と優占種が変遷した。セイバンモロコシ群落は草刈直後の7月以外は安定して分布していた。水際には、ヨシ群落安定して生育しており、水中では、外来種のコウガイセキショウモが今年度も引き続き安定して確認された。

④今切川 11.4 km地点

左岸は水際の広い範囲が例年通り、ヨシ群落で占められていたが、8月～10月には一部マコモ群落形成されていた。また、6月～8月調査時は群落完全に水に浸っている状態であったが、10月は干出している状況であった。高水敷では、近年分布が拡大しているハチク群落安定して確認され、例年通りメダケ群落・オギ群落・シロバナサクラタデ群落も比較的まとまって分布していた。

右岸は護岸堤防のため植生は確認されなかった。

・ 調査日及び調査地点（令和5年度）

調査地点		第1回	第2回	第3回	第4回
旧吉野川	23.4km	6月19～20日	7月18～19日	8月22日	10月17日
	18.6km	6月19日	7月18日	8月22日	10月16日
	6.4km	6月20日	7月19日	8月23日	10月18日
今切川	11.4km	6月20日	7月20日	8月23日	10月17日

・ 調査断面の特徴

調査地点		特徴
旧吉野川	23.4km	中流河川に発達する草原性の自然植生タイプであり、水際から陸域の配置が典型的である。
	18.6km	沈水植物が最も広く発達、オギ、クズが優占する植物群落が発達している地点である。
	6.4km	旧吉野川河口堰の湛水域である。植生はやや単調であるが、下流河川における標準的な植生断面である。
今切川	11.4km	今切川河口堰の湛水域である。ヨシ、オギが優占する植物群落が発達している地点である。

A. P.
(m)

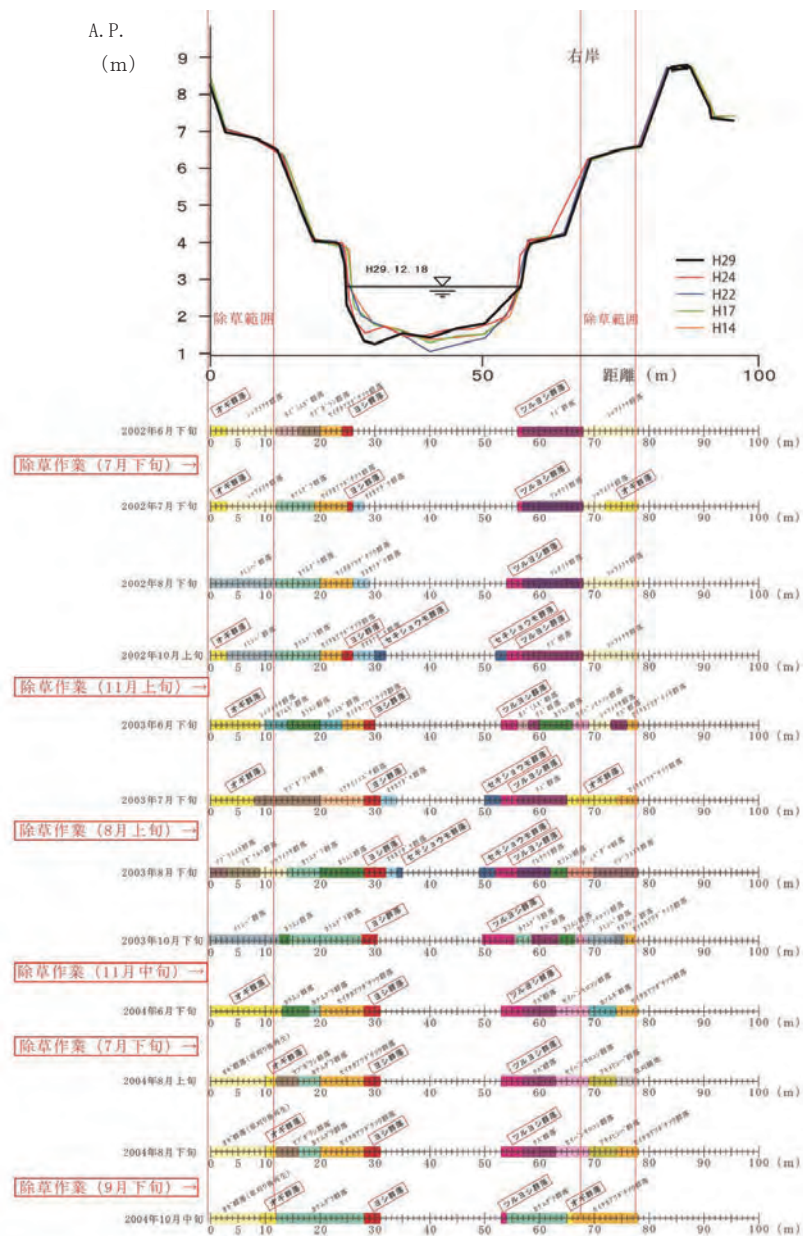


図 2.6.7.1(1) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23.4 km地点)

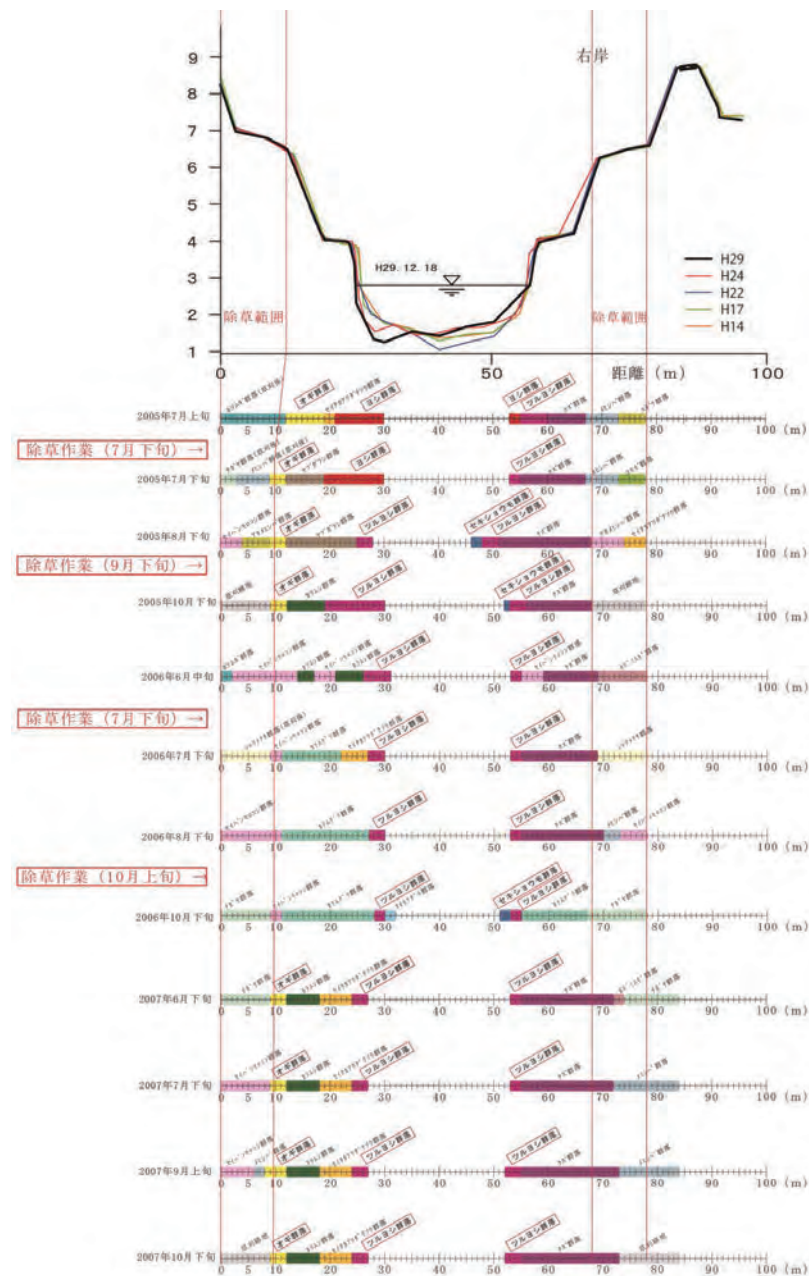


図 2.6.7.1(2) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23.4 km地点)

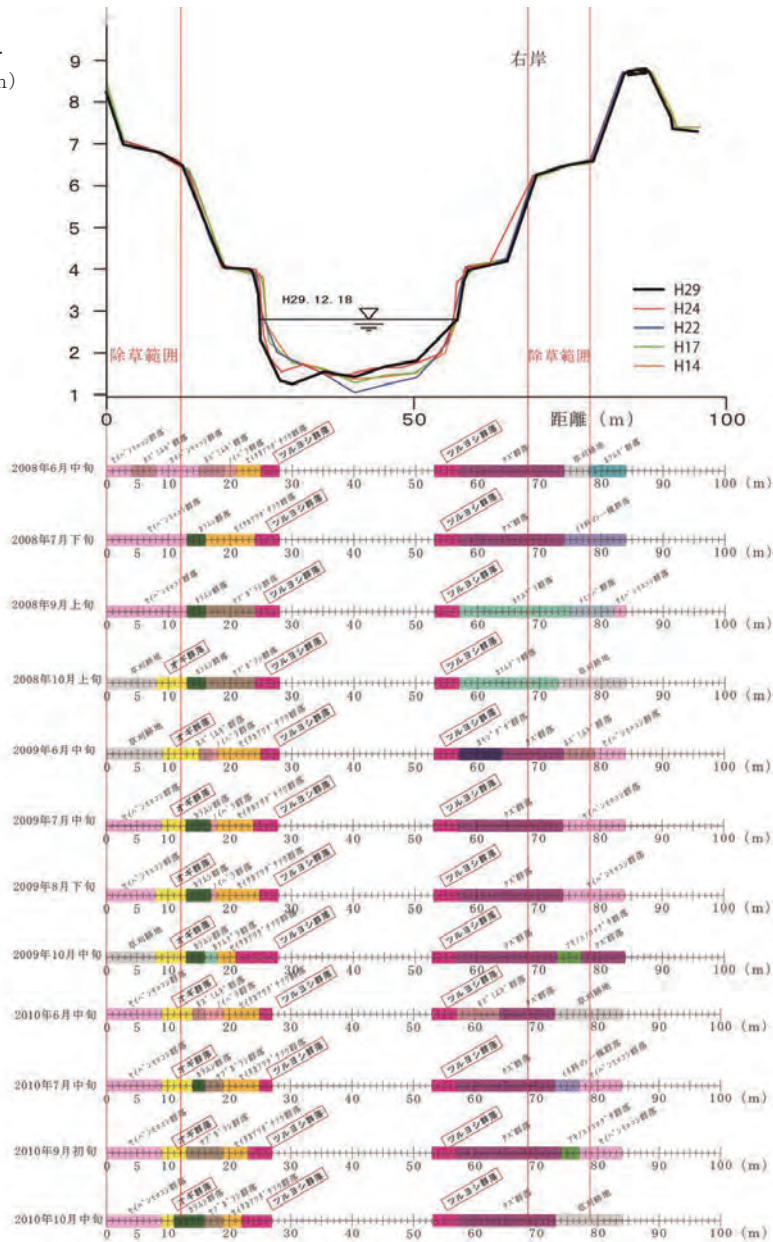
A. P.
(m)

図 2. 6. 7. 1 (3) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23.4 km地点)

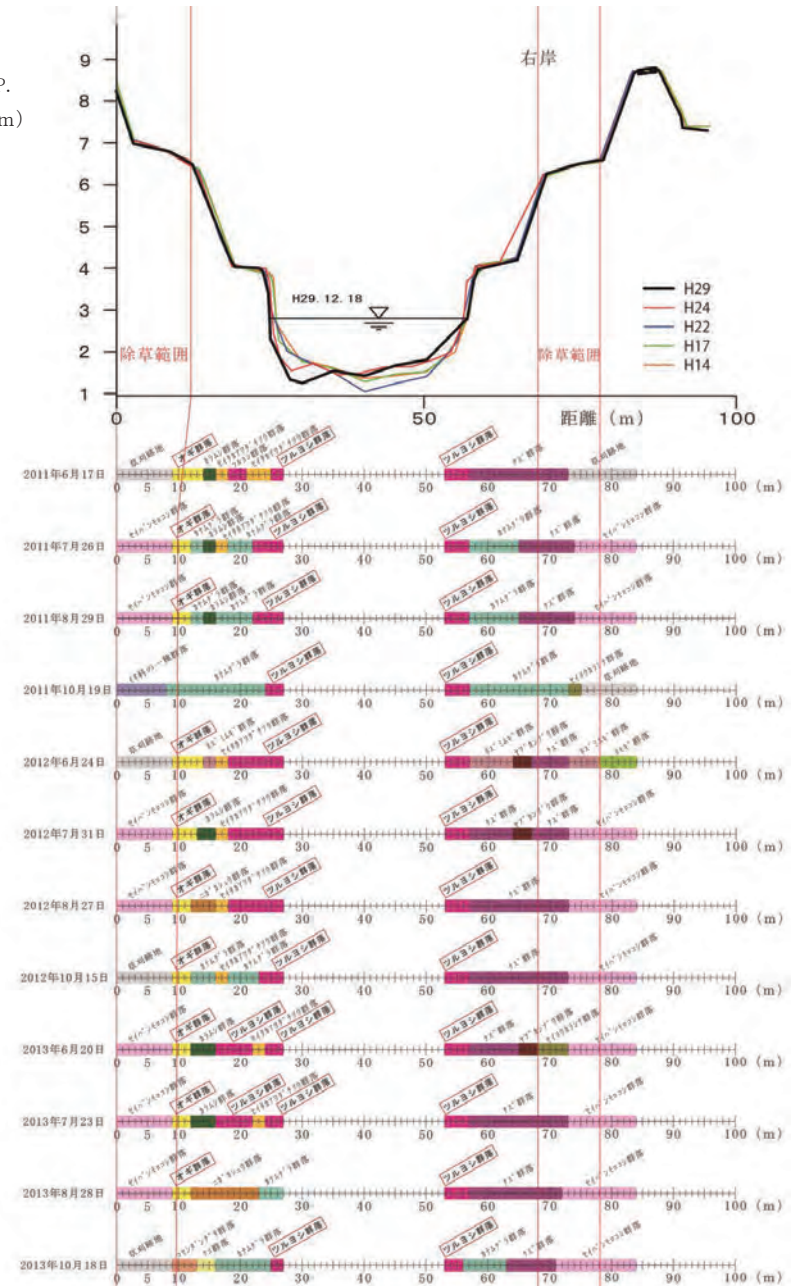
A. P.
(m)

図 2. 6. 7. 1 (4) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23.4 km地点)

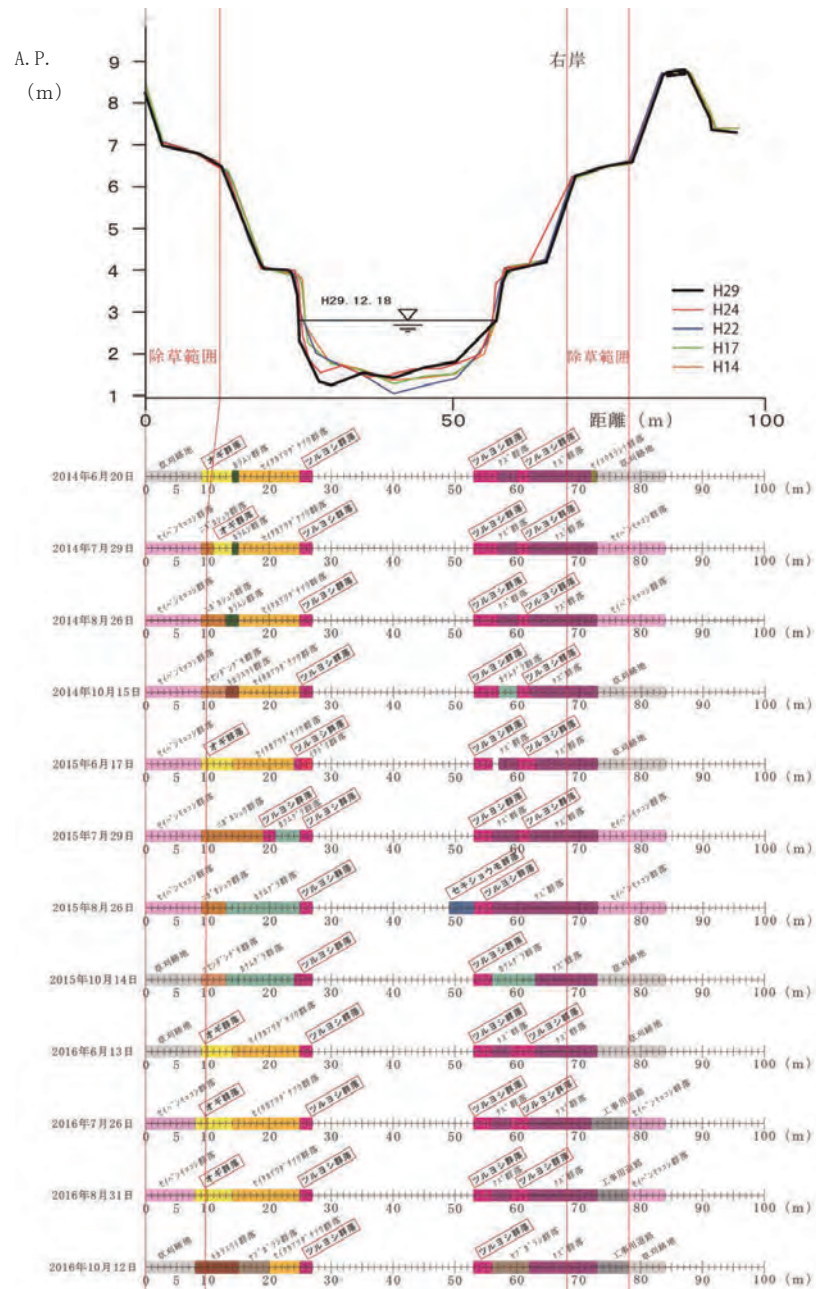


図 2. 6. 7. 1 (5) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23. 4 km地点)

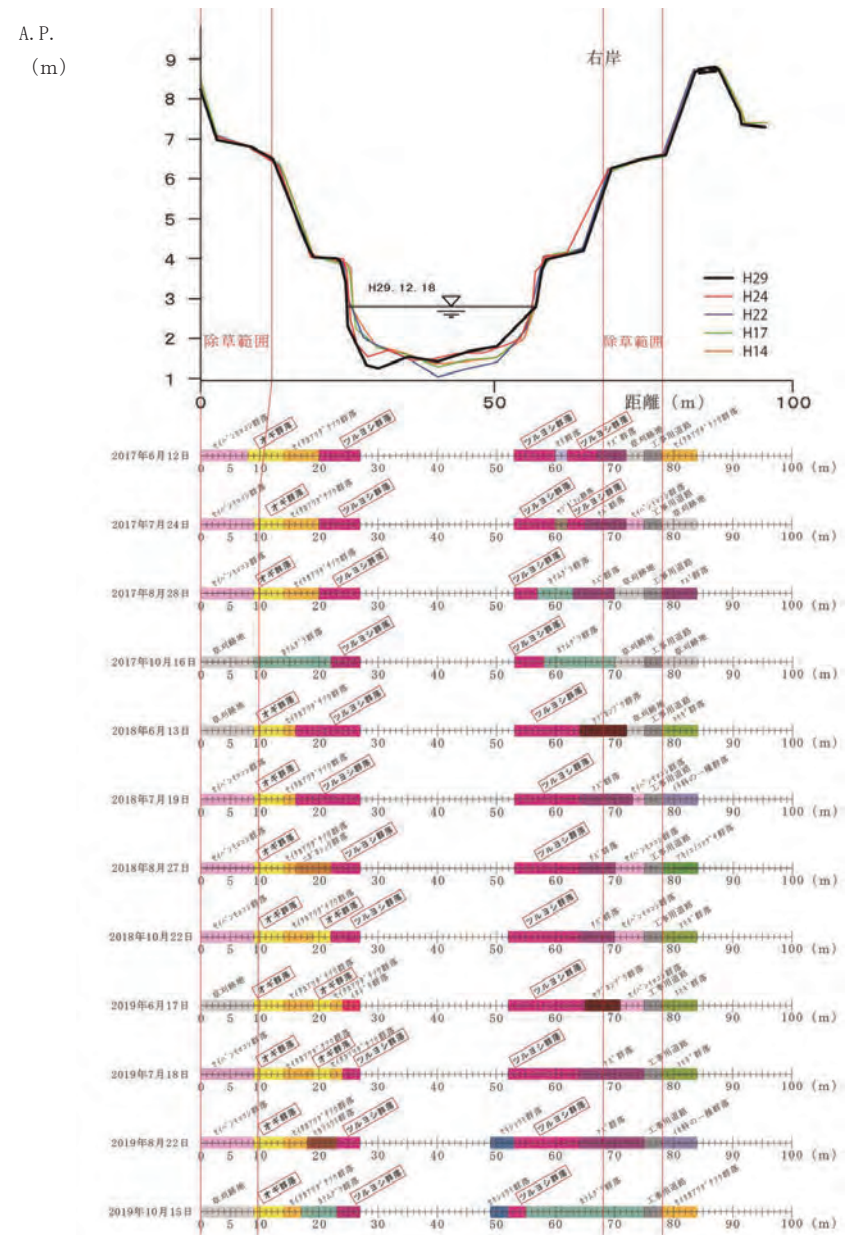


図 2. 6. 7. 1 (6) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23. 4 km地点)

A. P.
(m)

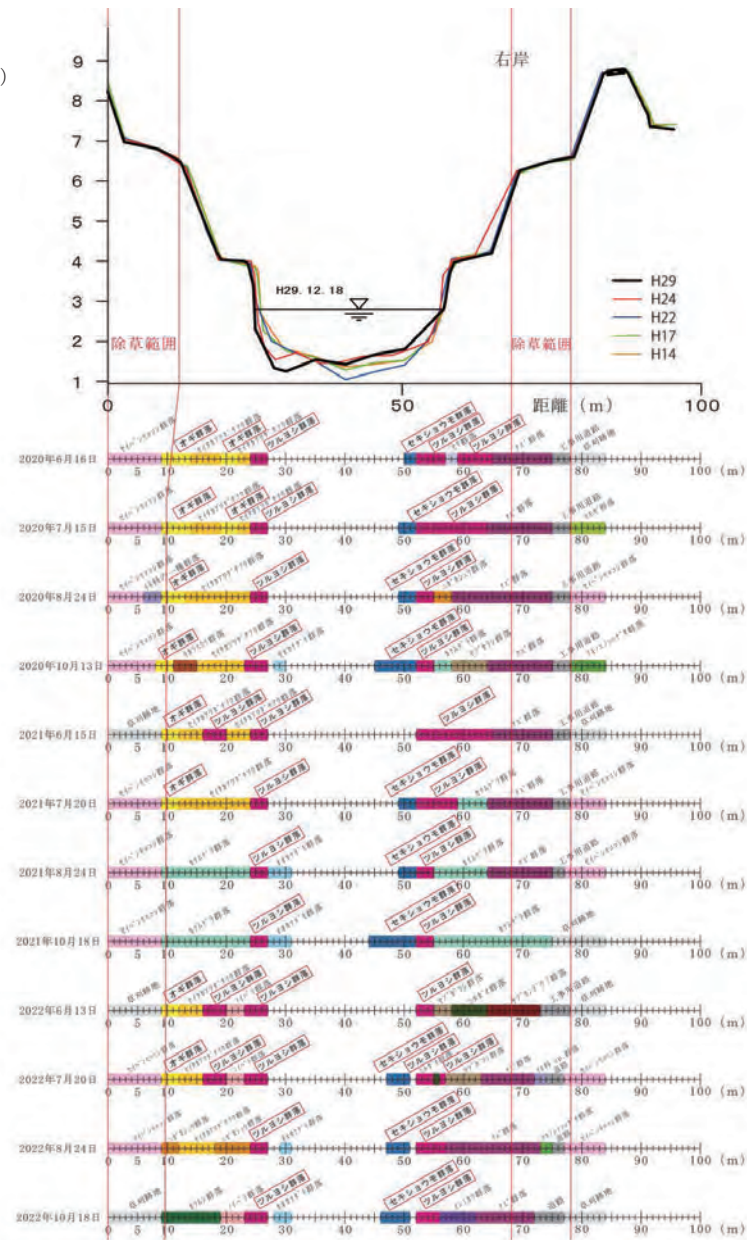


図 2.6.7.1(7) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23.4 km地点)

A. P.
(m)

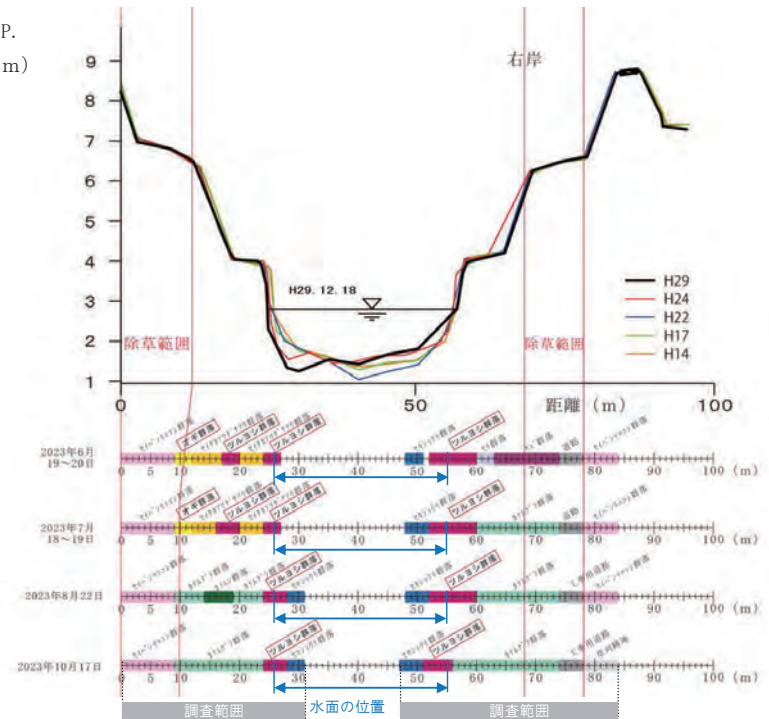


図 2.6.7.1(8) 植生断面図の変化 (旧吉野川 23.4 km地点)

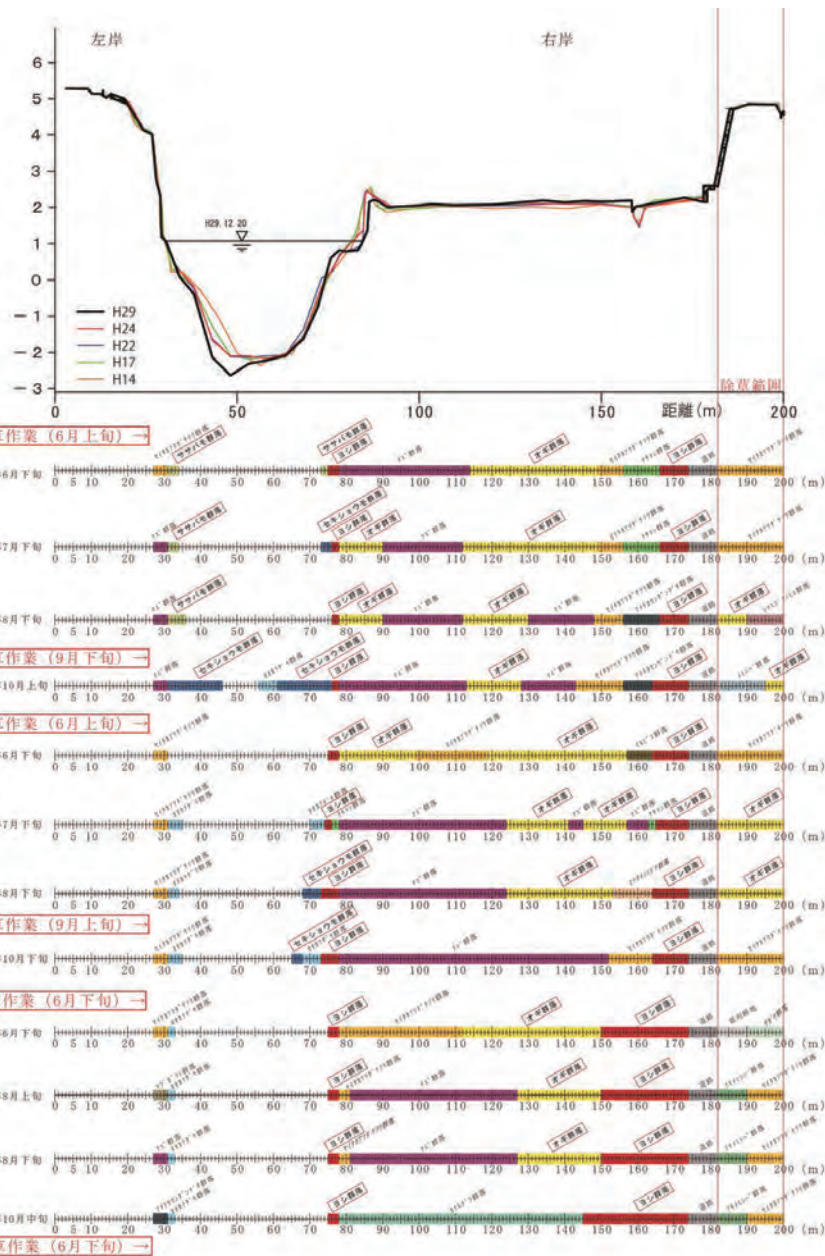


図 2. 6. 7. 2(1) 植生断面図の変化 (旧吉野川 18.6 km地点)

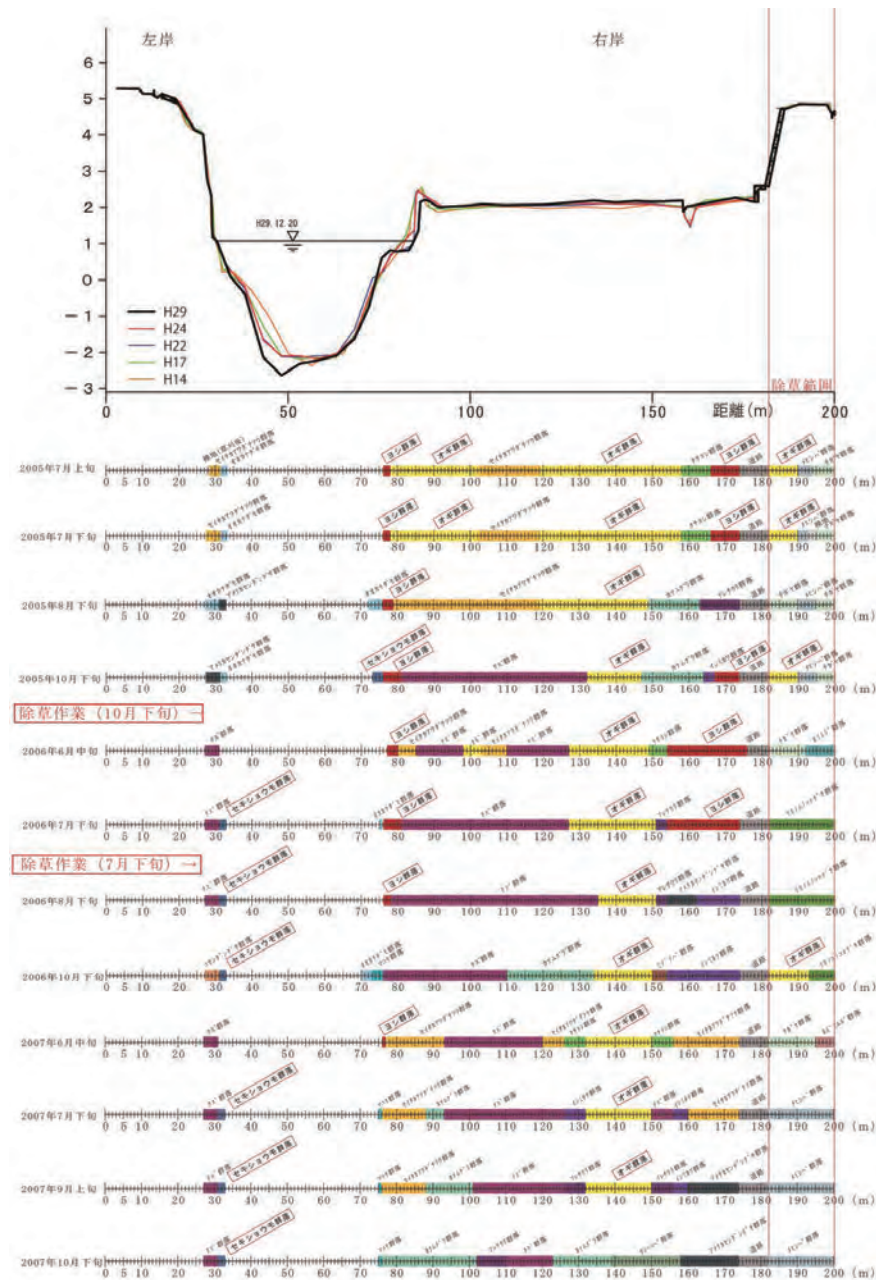


図 2. 6. 7. 2(2) 植生断面図の変化 (旧吉野川 18.6 km地点)